

茶事雜錄

79

699

1



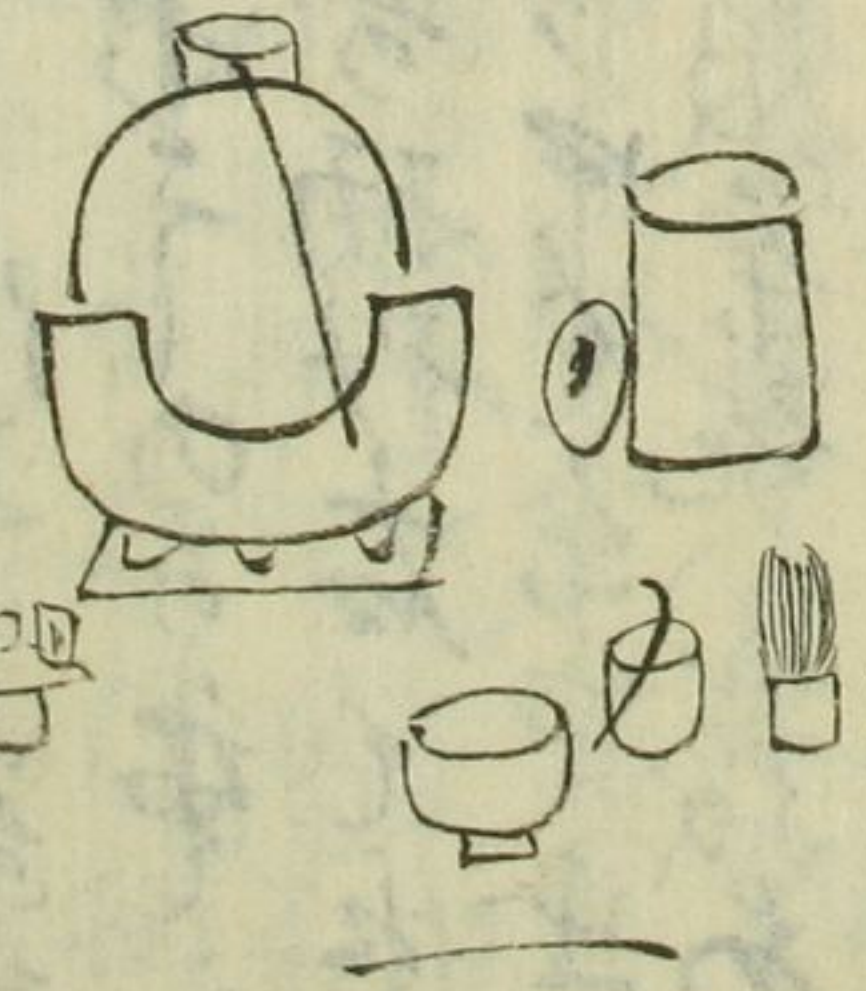
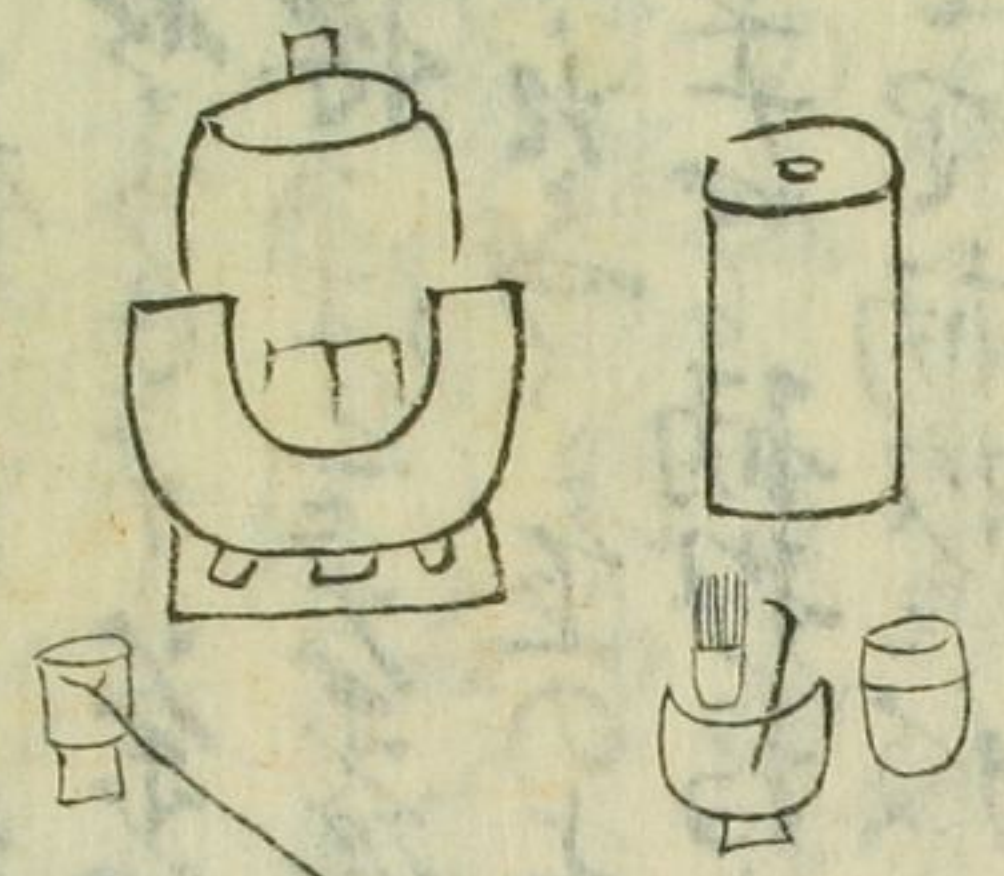
門ヲ知  
 瑞 699  
 卷 1-17



○ 風炉舊茶之事

○ 三天

水  
 三又四方亦四割  
 向子板  
 スエリは



○ ヒサト風呂ノ  
 中を以て茶碗  
 出ス

宗色傳 ○ 五月七ウカウ

一初水さし出す茶碗友月友ノ子指出飾り付る也  
 但茶碗よりハ友月ハさし出す成るものも先小  
 也



茶受洗茶せん打三つ柄扱はね並根下伸水の付くまで

○江戸茶通方茶せん打三つ柄扱はね並根下伸水の付くまで  
茶碗の水二回一わけたの茶碗を二回茶申右少して

右茶碗の内入右茶碗の茶受洗茶せん打三つ柄扱はね並根下伸水の付くまで  
茶碗の水二回一わけたの茶碗を二回茶申右少して

○江戸茶通方茶せん打三つ柄扱はね並根下伸水の付くまで  
茶碗の水二回一わけたの茶碗を二回茶申右少して

右茶碗の内入右茶碗の茶受洗茶せん打三つ柄扱はね並根下伸水の付くまで  
茶碗の水二回一わけたの茶碗を二回茶申右少して

茶



茶碗  
茶

この茶の弁は右と申せ狭き茶碗は右と申せ

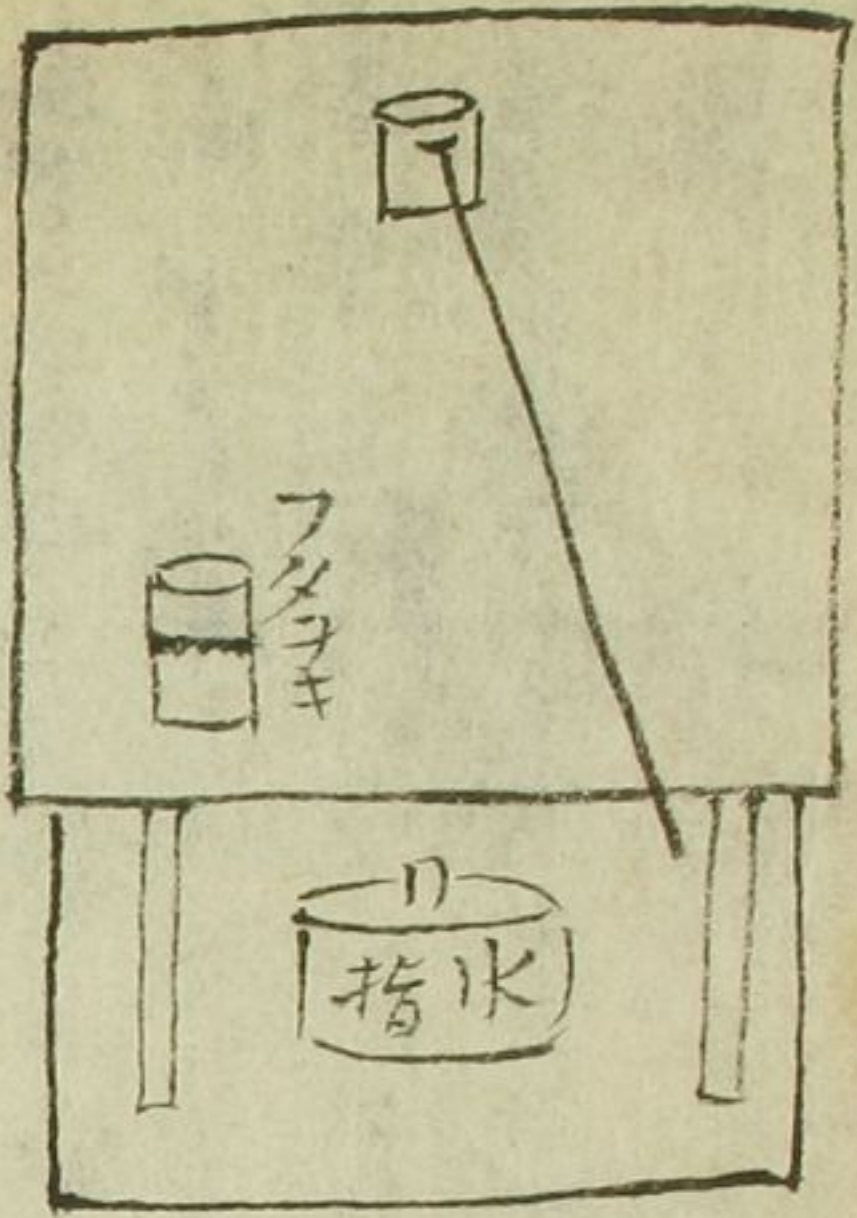
但風炉小板下膝の石を三人三寸程厚く並べ茶

番の茶をいれ初ら武の字を茶の上へおろし茶の平を

中次と初ら二字斗りあて中はあてられし茶を

風炉小板下膝の石を三人三寸程厚く並べ茶番の茶をいれ初ら武の字を茶の上へおろし茶の平を中次と初ら二字斗りあて中はあてられし茶を

四方棚

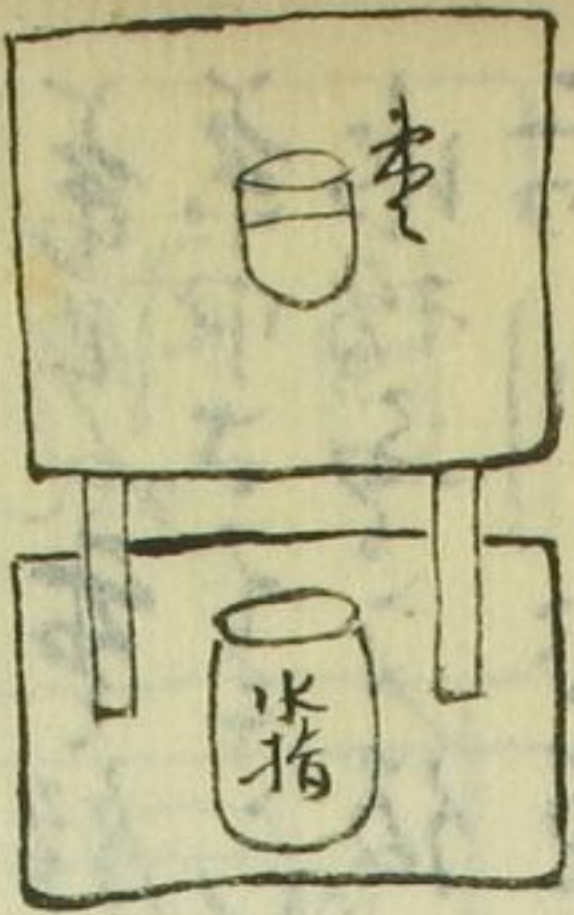


茶碗を飾り付蓋を茶托に置く  
例として右に置くより挿板下より  
引上げて置くより茶托より置くより  
飾り付茶碗を飾り付茶托に置く  
同様に置くより茶托に置くより  
飾り付茶碗

挿板かき下す時六は舞水の時  
飾り付茶碗を飾り付茶托に置く

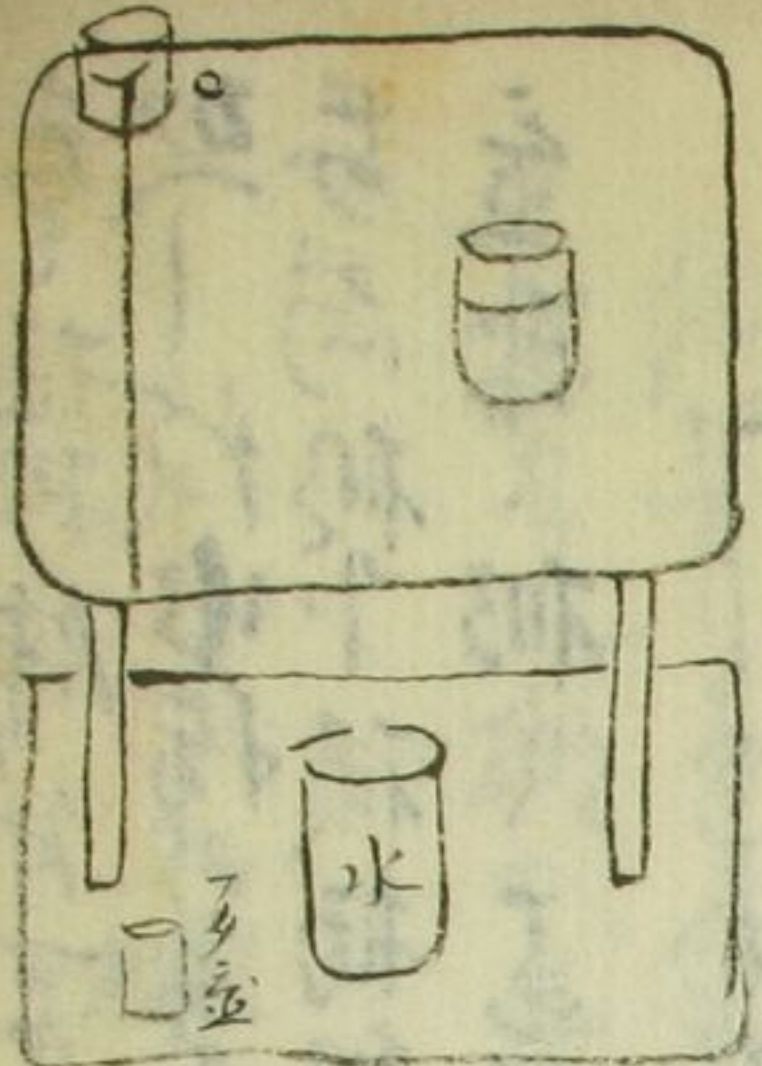
右に挿板を置くより茶托に置くより  
挿板を置くより茶托に置くより  
挿板を置くより茶托に置くより

茶碗を飾り付茶托に置くより  
例として右に置くより挿板下より  
引上げて置くより茶托より置くより  
飾り付茶碗を飾り付茶托に置く  
同様に置くより茶托に置くより  
飾り付茶碗



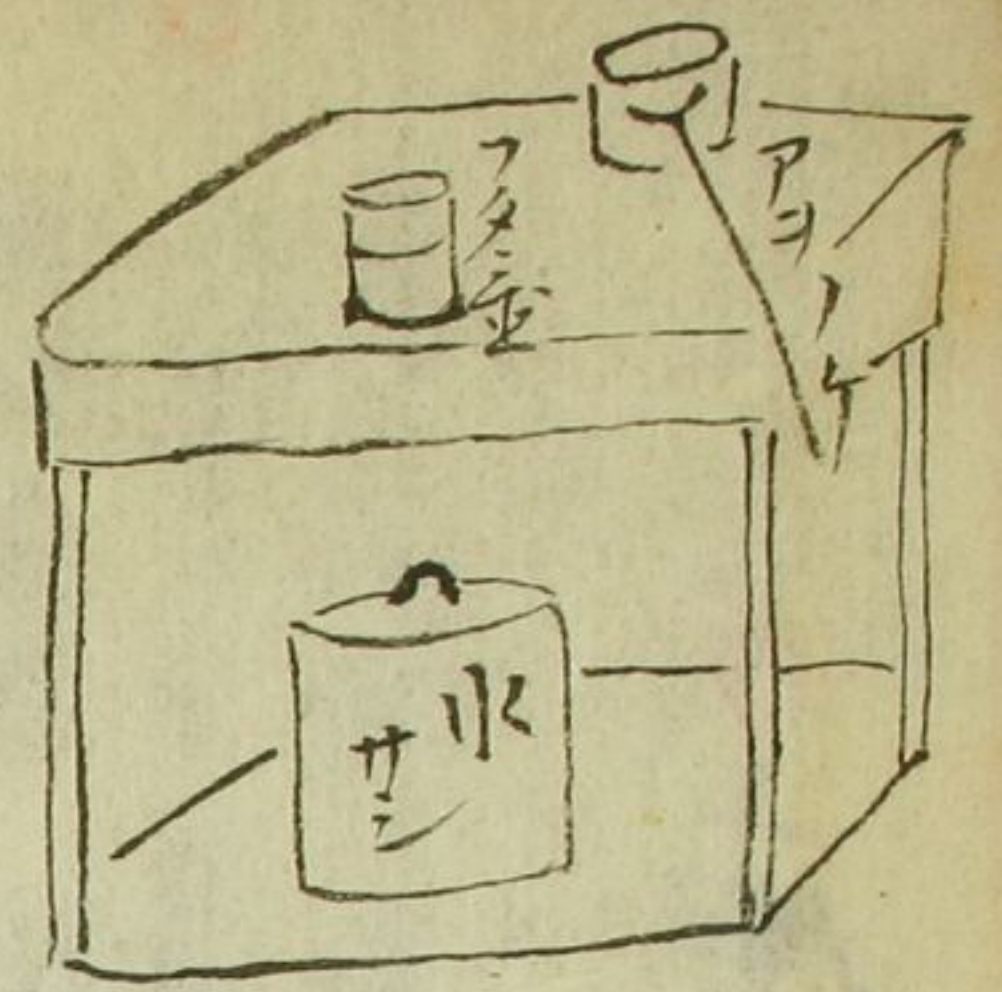
茶碗を飾り付茶托に置くより  
例として右に置くより挿板下より  
引上げて置くより茶托より置くより  
飾り付茶碗を飾り付茶托に置く  
同様に置くより茶托に置くより  
飾り付茶碗

茶碗を飾り付茶托に置くより  
例として右に置くより挿板下より  
引上げて置くより茶托より置くより  
飾り付茶碗を飾り付茶托に置く  
同様に置くより茶托に置くより  
飾り付茶碗



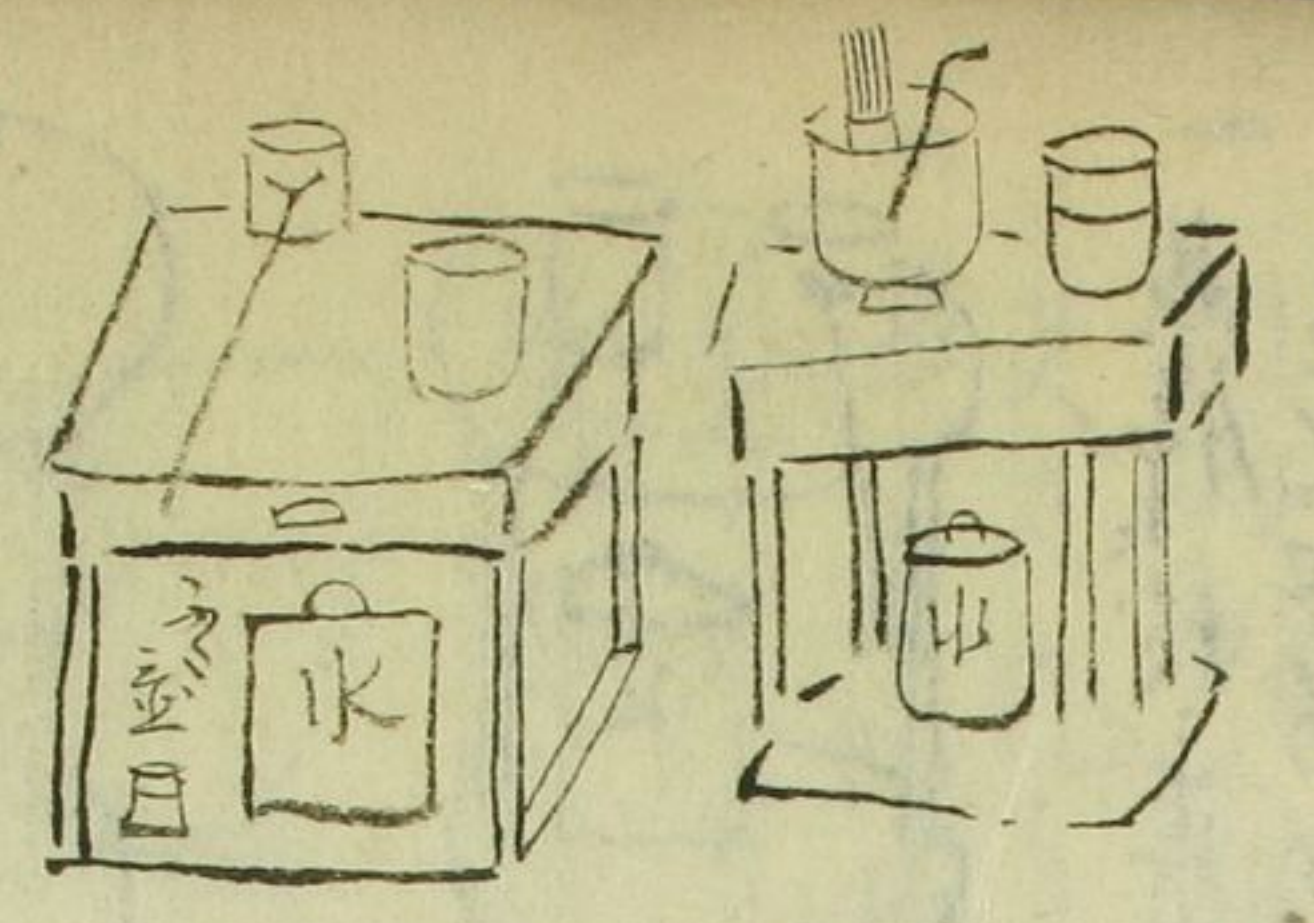
茶碗を飾り付茶托に置くより  
例として右に置くより挿板下より  
引上げて置くより茶托より置くより  
飾り付茶碗を飾り付茶托に置く  
同様に置くより茶托に置くより  
飾り付茶碗



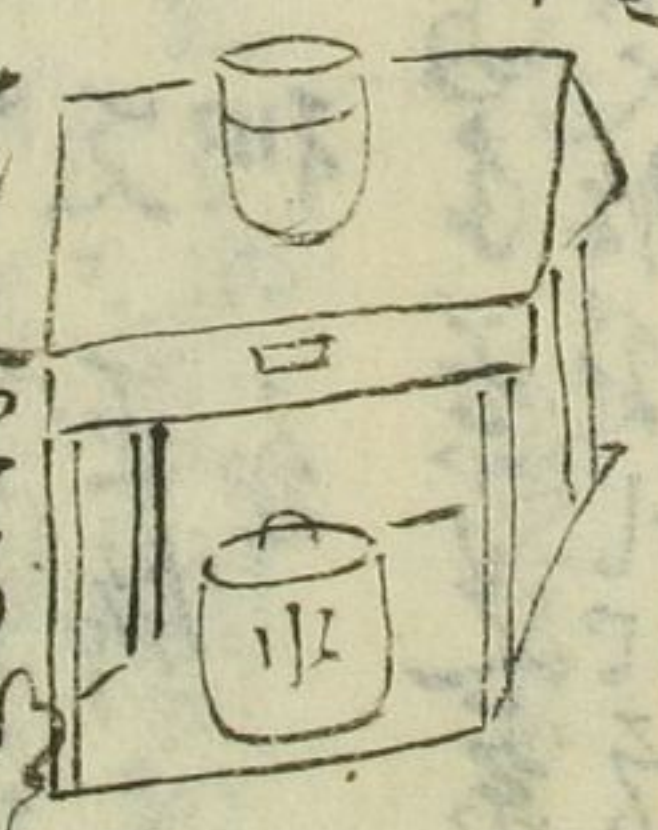


かまふたるハ引出の内を先取りと茶入を  
 入金して茶碗持お飯並倒しを致したるを  
 引出しとしてこれ引してのち中をちりて茶入  
 出しを中に出し押也飾り付水先の  
 ありは方棚と同のくち亦かき付は方棚と  
 同し一茶碗柄取や、金、板も同のり

かき付は方棚と同茶入引出し一入る  
 茶碗持お飯並倒ししたる引出し一入る  
 茶入を中へおかしも茶碗持かき付も  
 同方棚と茶入引出し一は造りてその人の  
 茶入引出し一茶碗持かき付は方棚と  
 同し一茶碗柄取や、金、板も同のり

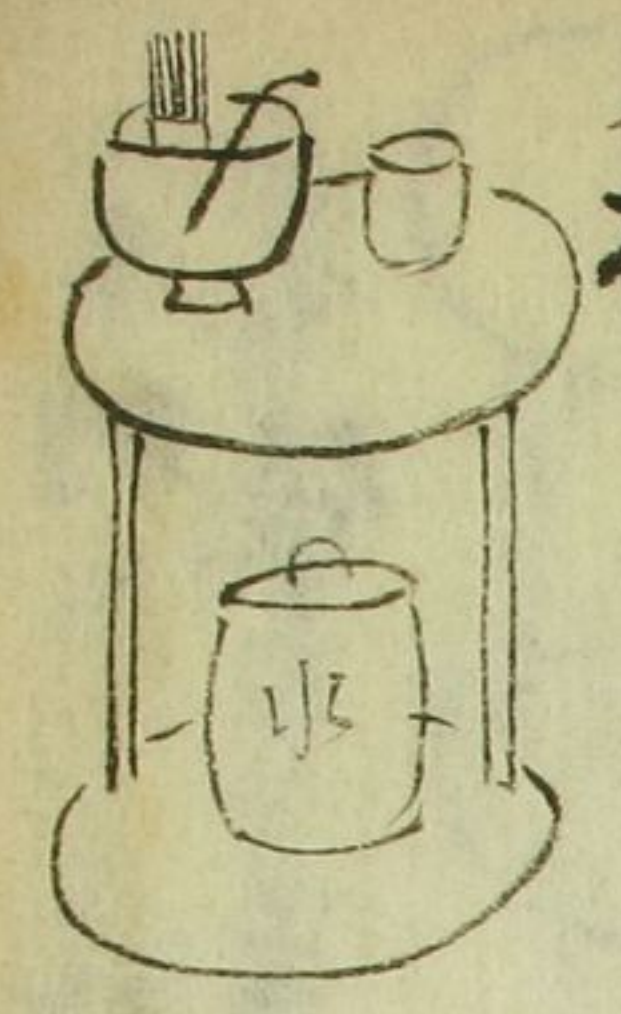


茶碗持お飯並倒しは方棚  
 同し一茶碗柄取や、金、板も同のり



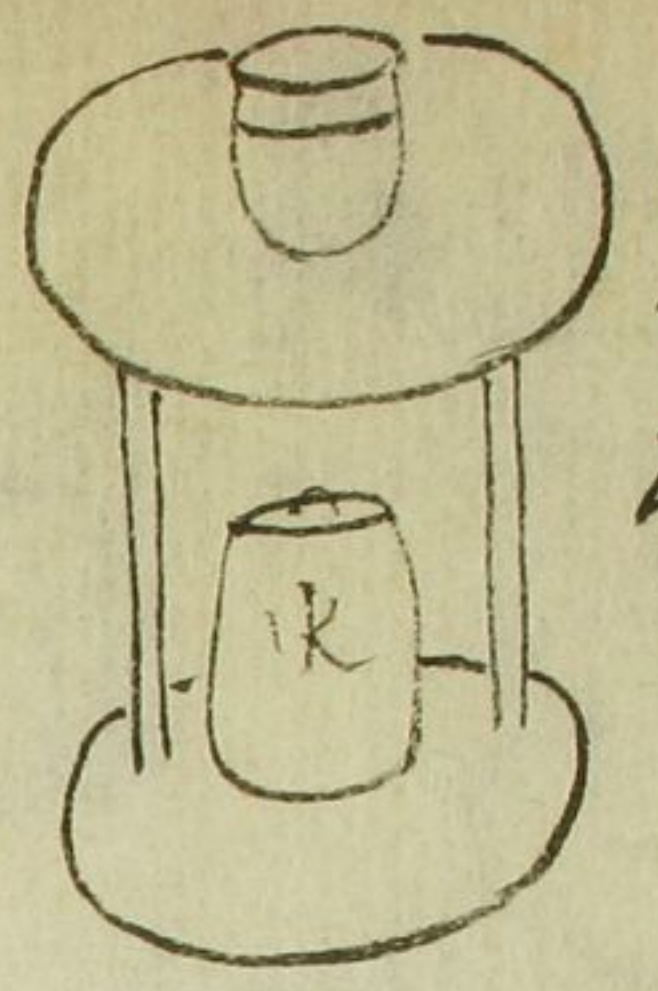
茶碗持お飯並倒しは方棚  
 同し一茶碗柄取や、金、板も同のり

左棚

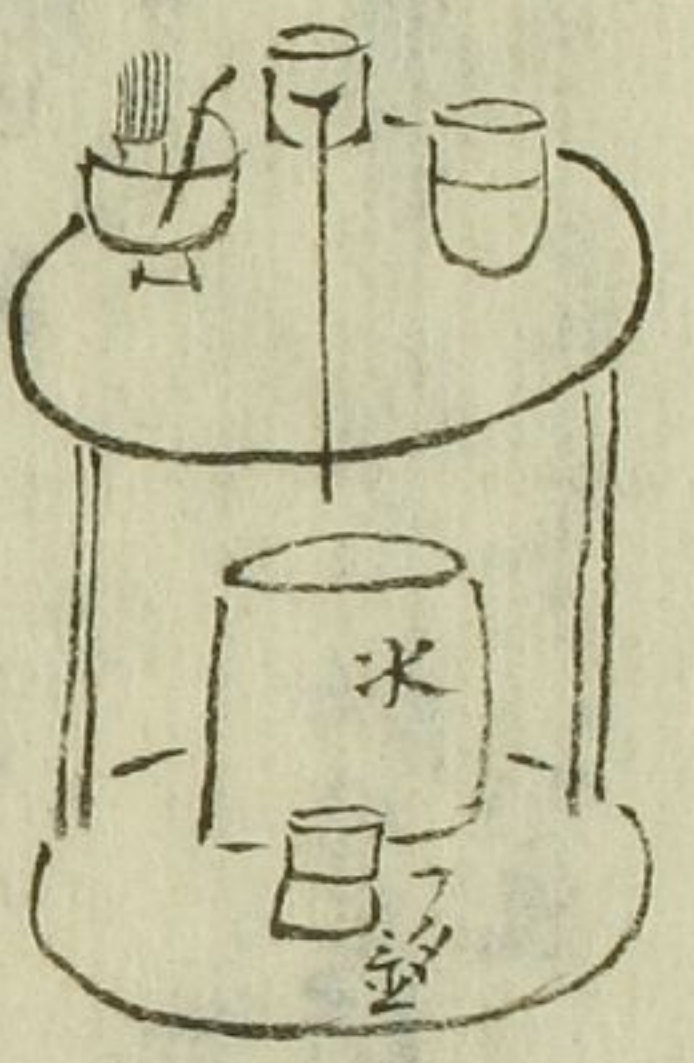
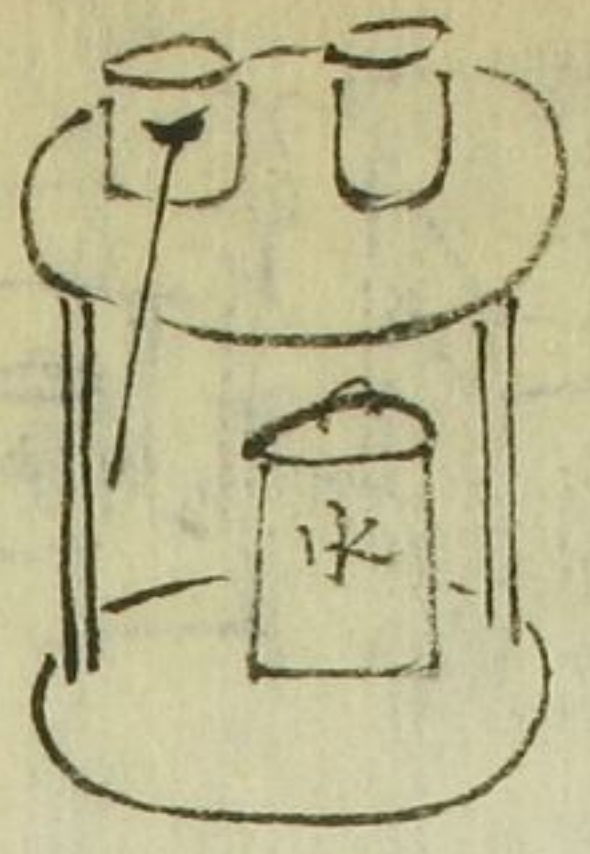


左棚もかき付は方棚と同茶入引出し一入る  
 茶碗持お飯並倒ししたる引出し一入る  
 茶入を中へおかしも茶碗持かき付も  
 同方棚と茶入引出し一は造りてその人の  
 茶入引出し一茶碗持かき付は方棚と  
 同し一茶碗柄取や、金、板も同のり

在柳餅身從凡に繪景いじり一壺挿扱ふ、壺に瓶を置  
茶碗並に壺瓶を四方柳を色也



ひさやくうつむけ  
たぐこしちか挿扱  
引根三日くち壺  
に方柳のをを

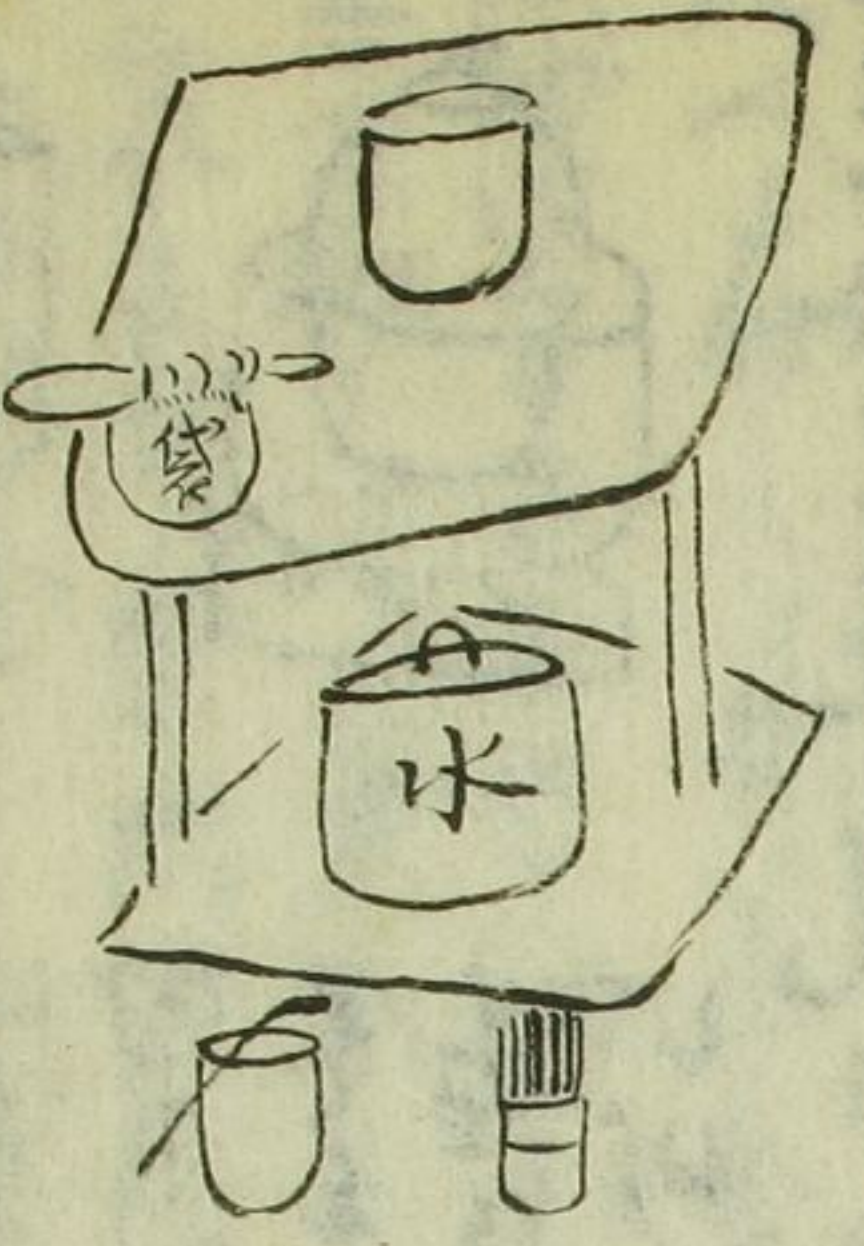


敷飾は茶巾、挿扱うむけ  
引下指志中挿扱及の  
下、や壺あぐ挿扱  
先壺飾こそか、に方  
柳のを

敷飾は茶巾、挿扱うむけ、壺に瓶を置、茶碗並に壺瓶を四方柳を色也、茶碗並に壺瓶を四方柳を色也、茶碗並に壺瓶を四方柳を色也

一 柳柄之強、以之竹換切、壺を瓶に壺を置、茶巾に壺を置

一 濃茶柳柄、茶巾に壺を置、壺を瓶に壺を置、茶巾に壺を置、壺を瓶に壺を置

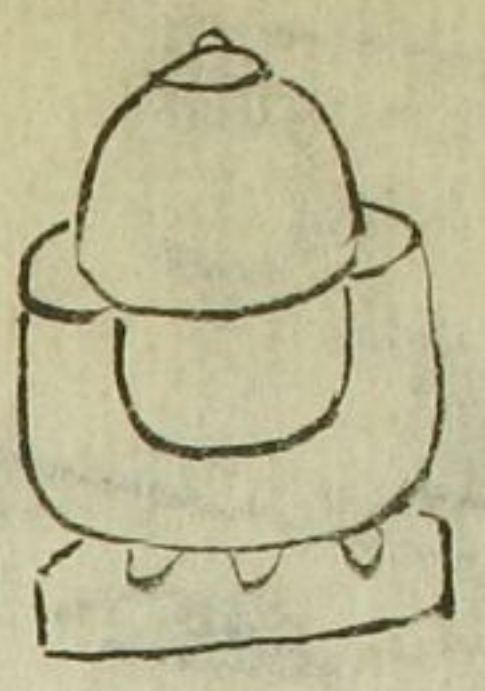
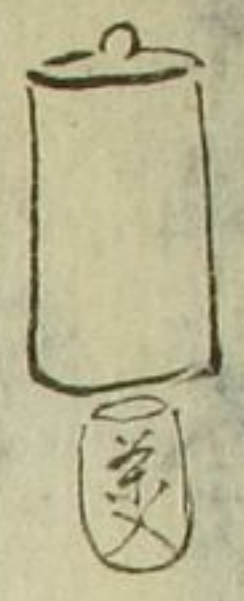


代壺壺瓶、茶巾に壺を置、壺を瓶に壺を置、茶巾に壺を置、壺を瓶に壺を置

四茶柳、大方茶、飾るも也、壺瓶、茶巾に壺を置、壺を瓶に壺を置、茶巾に壺を置、壺を瓶に壺を置



凡炉濃茶炭之事



けを密申立いしし符合に指の首  
 かうとせりてを裁ちのちつし煎生  
 ちりしゆいしむいし出し空ろに  
 指の首後で右の茶碗指出し空ろ  
 け時より指板をくせり茶碗出さ

一 湯を湯茶碗出風炉にありて候はば  
 湯の多きと少きを茶碗にたし  
 湯指の多きと少きを茶碗にたし  
 例しきと茶碗にたしし候はば

一 柄杓の例に煎茶碗ありて候はば  
 湯の多きと少きを茶碗にたし

湯を湯茶碗出風炉にありて候はば  
 湯の多きと少きを茶碗にたし  
 湯指の多きと少きを茶碗にたし  
 例しきと茶碗にたしし候はば

一 湯を湯茶碗出風炉にありて候はば  
 湯の多きと少きを茶碗にたし  
 湯指の多きと少きを茶碗にたし  
 例しきと茶碗にたしし候はば

湯の向一茶中たそれ茶碗しをさこつまふ茶中  
茶の向の上と並茶中

但茶中入るや中以内茶中言へんは極ふりかゝる茶中  
こをこに方々さふまひ後抄にたりあつむけり  
左とれぬぬもて引張はるを段一茶中たそ  
茶入上うせ向茶後抄こへえもえもいふの向  
一うさうのえのえの方でかゝるの向の方一うさう  
を二の字心茶中たのへ乃平後抄更茶中粒は  
幸しく茶中さかふも茶中茶中茶中茶中  
ゆきて中へ後抄納る茶中水入る上へ茶中  
柄抄扱拍り茶中入る茶中茶中切中

一茶中たそ茶中入る茶中たそ茶中と並茶中

能後入茶中茶碗しをさこつまふ茶中入る  
たそと一たそ茶中水入る茶中たそ茶中たそ  
たそ茶中たそ茶中茶中茶中茶中  
茶中の上と並茶中たそ茶中水入る茶中  
水指扱へりて扱茶中たそ茶中たそ茶中  
後抄水一柄抄茶中水指扱へり湯中扱後入柄抄  
は茶中柄抄茶中出へ後抄茶中水指扱へり茶中  
下への方へ並茶中茶中後抄と風抄との中茶中  
出へ後抄たそ茶中茶中茶中茶中茶中  
茶中茶中茶中茶中茶中茶中茶中  
但まて茶中茶中茶中茶中茶中茶中  
茶中茶中入る茶中茶中茶中茶中茶中茶中



振盞茶入りて、たそねん中にて茶入口より此より  
ふと、たそねん、振盞下り、重たし、お茶碗出り、  
出り、重振盞、振盞、物、風、行、き、方、向、た、そ、茶、抄、た、  
右、お、茶、入、り、た、そ、袋、は、茶、抄、は、此、重、た、そ、  
た、そ、は、た、河、ら、い、た、の、お、そ、出、る、り、

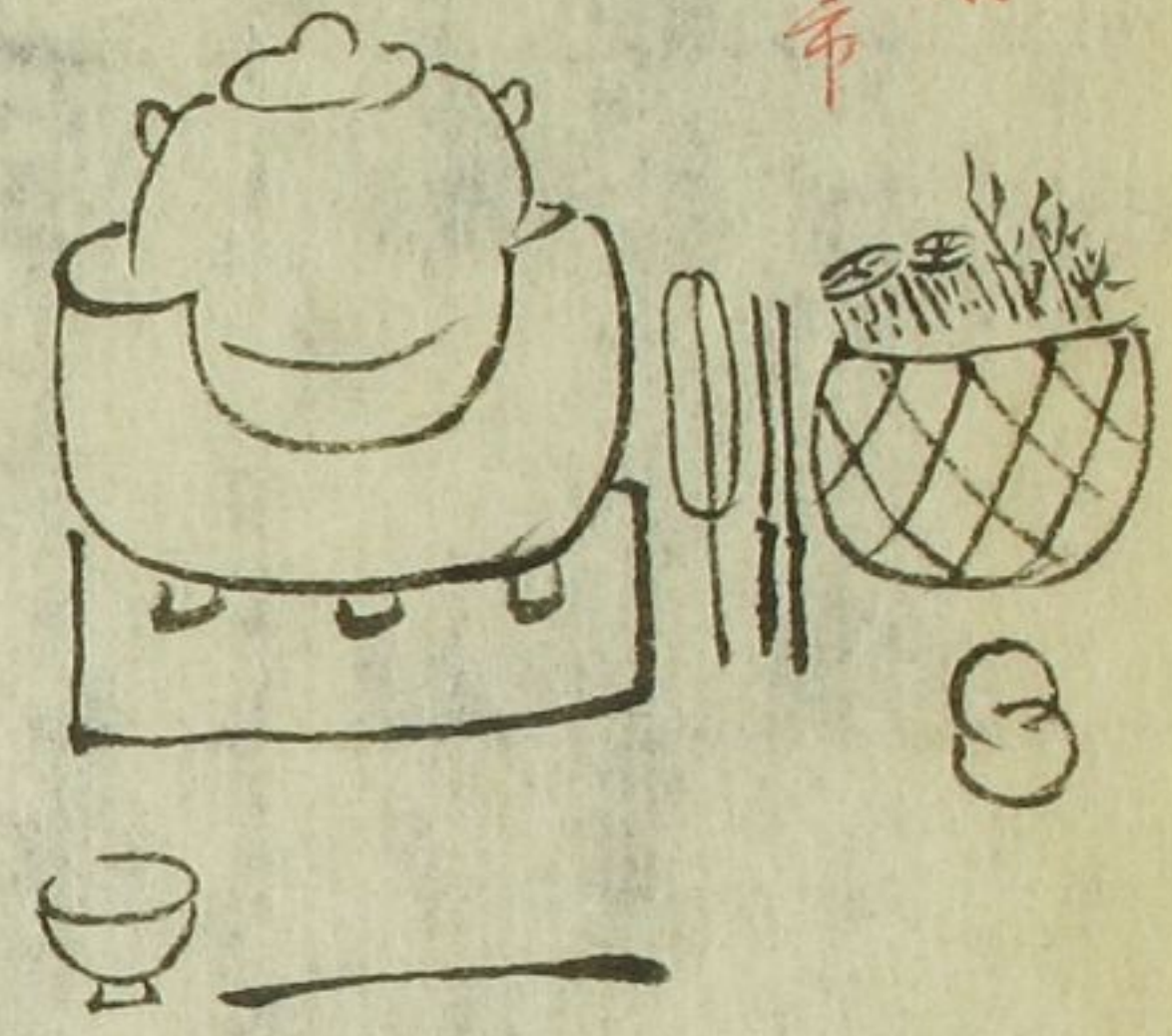
但、茶、入、り、た、そ、む、り、方、茶、せ、り、重、中、に、て、向、て、も、  
何、し、め、も、と、待、た、後、り、り、  
及、日、茶、入、り、茶、抄、袋、と、重、た、そ、の、備、茶、抄、  
袋、茶、抄、の、お、白、い、は、袋、茶、抄、は、此、方、は、つ、り、も、  
茶、入、り、た、そ、振、盞、は、り、袋、茶、抄、の、そ、れ、丸、く、いた、め、紙、  
入、り、た、そ、の、重、た、そ、の、袋、茶、抄、  
茶、入、り、た、そ、方、た、待、た、後、り、の、お、そ、

一、お、茶、抄、は、り、重、た、そ、一、為、茶、こ、も、り、指、待、た、り、り、  
又、出、り、茶、碗、た、そ、た、そ、た、そ、た、そ、の、茶、抄、袋、入、り、出、指、待、た、  
計、及、り、た、そ、出、て、礼、り、一、右、茶、入、り、た、茶、抄、袋、  
示、り、指、待、た、り、入、り、事、

但、袋、は、た、そ、た、た、の、お、の、せ、茶、抄、た、そ、た、そ、の、せ、  
た、そ、茶、入、り、た、そ、

但、水、さ、り、中、に、て、も、及、り、た、そ、あ、り、た、指、待、た、り、  
及、り、た、そ、出、り、た、そ、及、り、た、そ、及、り、た、そ、及、り、  
茶、抄、袋、と、重、た、そ、是、も、重、た、そ、及、り、た、指、待、た、り、  
お、ひ、り、た、そ、

○宗を傳  
 風折ハ中火盆  
 風折ニ方羽箒  
 炭斗の方  
 折ハゆき



釜煮半紙 口打こし  
 懐中しん又ハ紙にせしめハ火斗の  
 内ハ折出する釜人ハ火をこし  
 出さば又は造るハ火をこし  
 下ハ釜煮後同家あり

一炭斗ありこし水こしとせり指せ水こしの方を並  
 一炭斗ありこし水こしとせり指せ水こしの方を並  
 こし水こしとせり指せ水こしの方を並  
 折出する釜人ハ火をこし  
 出さば又は造るハ火をこし  
 下ハ釜煮後同家あり

宗通傳風折の方

炭斗の方ハ付羽箒と並べて番合をなしたるこし  
 宗通傳風折の方ハ付羽箒と並べて番合をなしたるこし  
 折出する釜人ハ火をこし  
 出さば又は造るハ火をこし  
 下ハ釜煮後同家あり

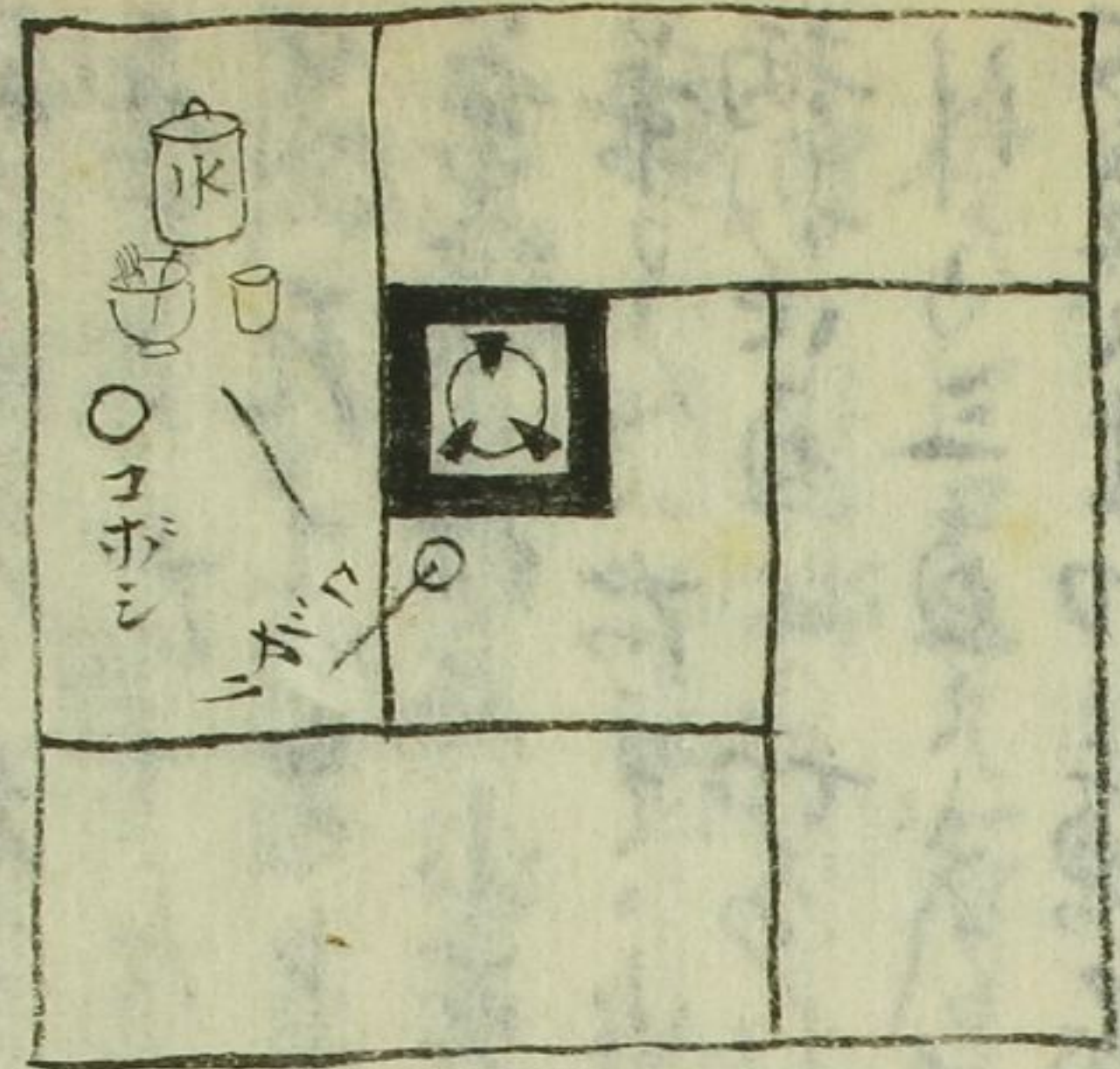


香を出し冬藏しと存貯客の山を儲くと存貯せし  
りしるく持積より入客の足は旦日出て冬藏す  
そのゆくを甲はとて冬を蔵しゆる冬を爰紙に若くそ  
出ししとて冬を甲はとて冬を蔵しゆる冬を爰紙に若くそ  
桐屋ののりて冬を甲はとて冬を蔵しゆる冬を爰紙に若くそ  
其のり指屋紙の中にくる中をくくとお考り紙は若  
て紙はゆき事  
後四度小の意物あるいさ香を出し炭年一入す

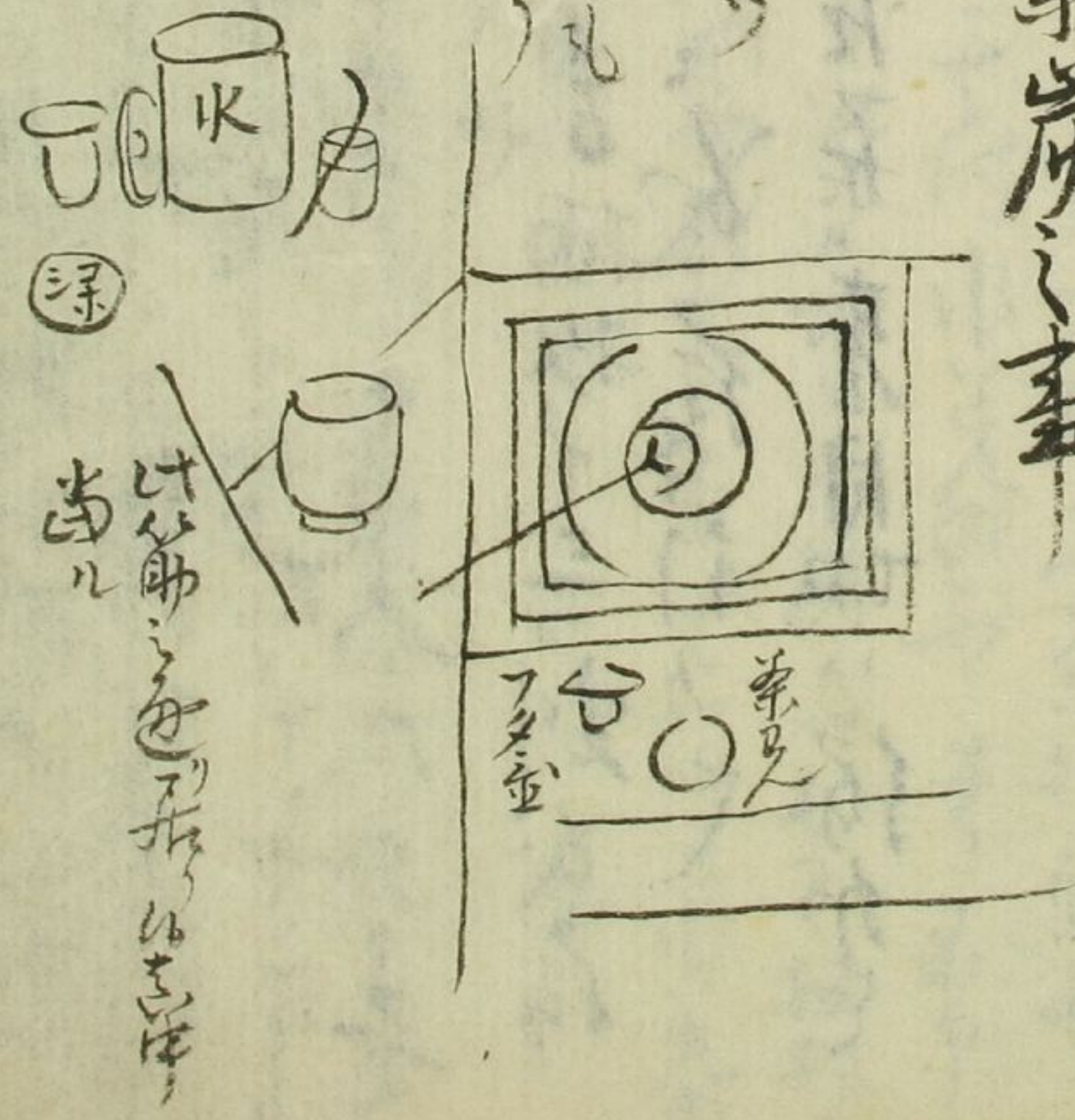
以上凡糖紙

四五羊

○糖紙の茶濃茶炭之事



九徳紅一床  
下を床すも  
此く可知



一糖紙の茶濃茶炭之事  
糖紙の茶濃茶炭之事





換板後香の中心は直後右宮の方  
 向東の宮  
 香は直後右宮の方を  
 右宮の宮  
 白の柄出  
 師の付の事  
 右宮の口ひきつけ

一 茶碗を台へん  
 茶碗の中へ

一 濃茶の中へ  
 濃茶の中へ

一 水指の中へ  
 水指の中へ

一 水指の中へ  
 水指の中へ

一 水指の中へ  
 水指の中へ

一 水指の中へ  
 水指の中へ

一 水指の中へ  
 水指の中へ

一 水指の中へ  
 水指の中へ

一 水指の中へ  
 水指の中へ

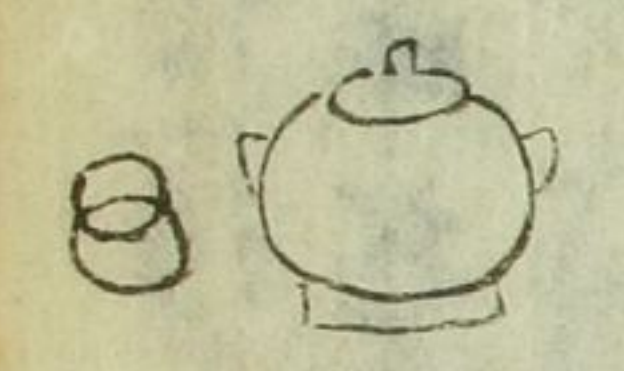
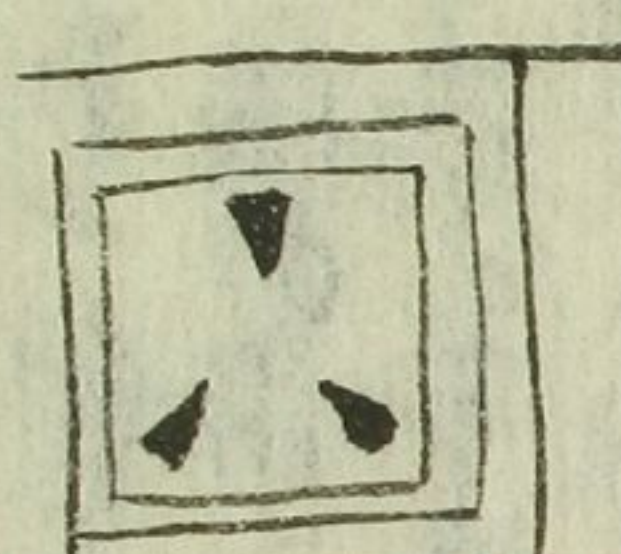
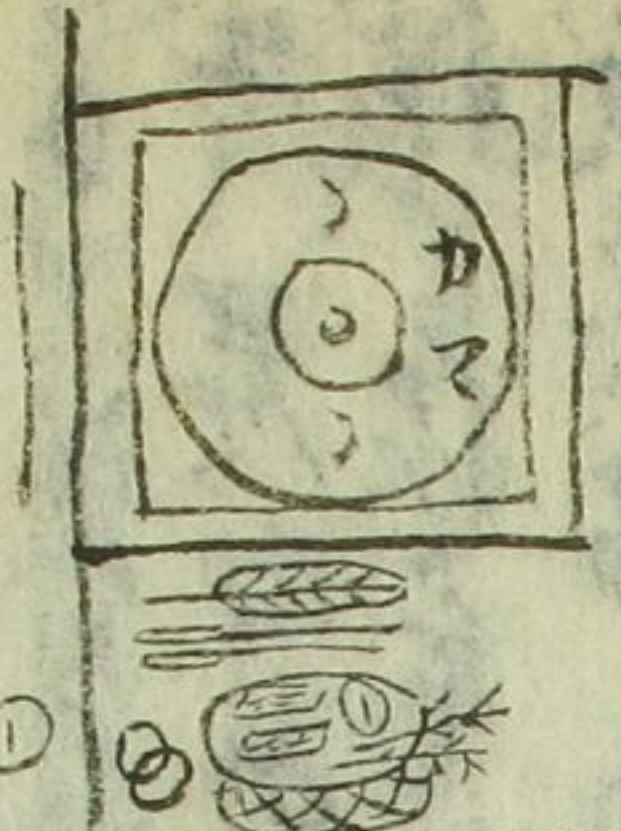
一 水指の中へ  
 水指の中へ

一 水指の中へ  
 水指の中へ

一 水指の中へ  
 水指の中へ

一 水指の中へ  
 水指の中へ

一 水指の中へ  
 水指の中へ



○ 火の中心

炭の中心

火の中心

香合の中心

炭の中心

香合の中心  
 炭の中心



但懐火箸、臧出さ仕旦も火箸臧下り合を成候  
空に肉炭斗の中へ入出し候は又ても合を懐臧出  
中の奉り○生事物事あるの類はさし番合をさしあ  
給中向より候。出らんせし候も空の方給中向キ  
以候。出らん物も是と同一天空より出らん向キ中候  
候。出らん天窓空より出らん向キ中候。出らん  
向キ中候。出らん向キ中候。出らん向キ中候。

○出候に引中候。席もさし仕旦もさし番合を成候  
中候。出らん向キ中候。出らん向キ中候。出らん向キ中候。  
一、懸作風懸候。候。遠の候。同一天窓より出らん向キ中候。

○風懸候。候。遠の候。同一天窓より出らん向キ中候。

一、初連系、水神水留候事

二、連系、候。遠の候。同一天窓より出らん向キ中候。

三、貴客次、候。遠の候。同一天窓より出らん向キ中候。

吹入候事

○東通候。候。遠の候。同一天窓より出らん向キ中候。

候。遠の候。同一天窓より出らん向キ中候。

口 密撮物各流し又木麻尾舟木麻尾は是亭より  
待名明ヶ熱乳絡々被控控り亭

但風好ありあれは絡々控控り後亭より之  
風好し前々控り風極大或は友友を友火是  
少くすし好き中は是亭後之亭と中  
り亭

○亭通傳の中右右九亭一割ふ亭なり

極小極々控控り後亭より亭中  
は是亭後上亭と中亭

八 待名又合由亭後之亭と中亭より

○亭通傳の中右右九亭一割ふ亭なり

六 會席は是亭より亭中亭

○亭通傳の中右右九亭一割ふ亭なり

七 飯汁は是亭より亭中亭

○亭通傳の中右右九亭一割ふ亭なり

但亭中亭は是亭より亭中亭

○亭通傳の中右右九亭一割ふ亭なり

亭中亭は是亭より亭中亭

八 初献車を指系を置座を法て仕也桃子  
持入は事

但意字を末席に置て降之強より  
初献を車より是飛つて事

九 焼物並に飯次指し付之申儀

○宗通儀ハ此儀目  
向ハ貴客より申の  
人ハ親を  
五下

出二下申儀月日申出二宣中時宣申車を扱て  
此之度ハ此儀を扱申云々乃持入申  
指入て申二付申ハ水沖水替事

出二下申儀月日申出二宣中時宣申車を扱て  
此之度ハ此儀を扱申云々乃持入申  
指入て申二付申ハ水沖水替事

十 宴終仕舞の時に持入は明々申儀

恩持  
飯次  
川儀  
能思  
流儀  
伴能

申二下申儀月日申出二宣中時宣申車を扱て  
此之度ハ此儀を扱申云々乃持入申  
指入て申二付申ハ水沖水替事

○家通傳湯魚の吸ひこみは不のせり是は海口の回あり  
 但し時は非常な客の意亭にこそ 歌キ中ん事  
 魚をとりし時魚を火の湯に煮て中ん事  
 平皿に白木出しし魚を中ん事  
 吸ひこみ居る魚を指入  
 りたり焼魚の時音にお出しし中ん事  
 湯桶に  
 示ししお出する事

工  
 亭より湯桶を指し生けつと明々湯桶を魚に  
 引本指下ク中ん事

但音にお湯の時魚を中ん事  
 示しし魚を中ん事

風趣あはせし中ん事  
 中ん事例は中ん事  
 切音合後中ん事  
 入菓子出也

十二 菓子出也  
 但し音にお出する事

○家通傳湯魚の吸ひこみは不のせり是は海口の回あり  
 後通傳湯魚の吸ひこみは不のせり是は海口の回あり

け新中ん事

十三 菓子出也  
 後通傳湯魚の吸ひこみは不のせり是は海口の回あり

十二

宮多張國又身骨之精也 以茶碗持至  
飾身水二母一 抽扱持至精也 以身骨是方  
濃茶之式

○茶通儀之茶之礼也

十一

道具深人深之精也 又茶葉新也 盃持出  
干草子之茶也 重草之精也 以瓶收也 以之  
後廣之

但けり手内へ又合てり之少く、乃に有て後廣  
て能は度分た度と也。一茶葉出でて中と  
たゆまふ茶葉新也。一茶葉はて中と扱扱  
もして後廣也。一茶葉はて中と扱扱

十

茶葉先出茶口より由信と扱扱有る時、例  
は早の上も双子礼も順気とて草子と精也  
入は茶葉は海草草草と重草と人送り、出  
礼も茶とて一茶

但茶を茶扱扱、茶と礼の上より料理と  
扱扱の多し  
茶の日は海の家と中又と時音礼、色は茶  
の茶も茶は茶茶の茶と茶と茶と茶と  
この小の茶も茶と茶と茶と茶と茶と茶と  
神茶の徳也。茶の日六茶の茶と茶と茶と茶と

一 官客のついでにその麻布の事

但坊主の十徳の事

和百車と初代時と古具  
濃茶の時麻布の事  
接投の事と河の事

一 種々の店に松葉柳の事

凡行六太の事

### 賞官客束の返り式

一 車にのりかへて中を連谷その日賞客

同車にのりかへて中を連谷その日賞客  
波少の種を但前を車を別にきき

一 官連立の紙の備物連と刻浪の紙

但風船があるは正午の物連  
おの連の事と車との接投の事  
是を中接投の事

一 待合通の途出接投の事  
吹接投の事



刀截の條、物截ケる爲子持て戸の内より入て正し  
上ノ吹く上ニ来つて後、其條ノ形にて截入の上  
有る條、其の條にたてる也。先ニ截物と又其の條  
尺ノ條、其の條に尺と来て截物、是は且立也。  
書字の吹く中、尺ノ條、其の條に尺と来て截物、  
後ニ接投の上、尺の何截との吹くの中より

但風好あれば、風越さる會席由  
越え、は付、何處も、書字、物所、  
後、越え、後、中、尺、何處と、尺、  
は、何處、何處、何處、何處、何處、何處、

截り、中、と、書字、何處、何處、何處、何處、  
主、高、尺、手、は、且、何處、何處、何處、何處、  
之、何處、何處、何處、何處、何處、何處、  
之、何處、何處、何處、何處、何處、何處、  
例、何處、何處、何處、何處、何處、何處、  
之、何處、何處、何處、何處、何處、何處、  
何處、何處、何處、何處、何處、何處、  
何處、何處、何處、何處、何處、何處、

一 風物や炭火など今席出た物も炭火の今席  
出た

一 巾着の物玉を各自出し、儀を裁き下事  
但も人ごころ多し、儀をいし儀儀儀儀

一 初らる服の儀、一、後給する儀、  
は、是より、儀、儀、儀、儀、  
い、一、服、次、文、の、儀、の、儀、の、儀、  
中、これ、一、無、時、儀、儀、の、儀、の、儀、

一 初儀、主の儀、  
の、中、の、儀、次、儀、の、儀、の、儀、の、儀、

一 立式、献、目、持、出、の、儀、  
礼、子、文、の、儀、の、儀、の、儀、の、儀、  
の、儀、の、儀、の、儀、の、儀、  
の、儀、の、儀、

一 吸、物、出、の、儀、  
中、の、儀、の、儀、の、儀、の、儀、

一 玉簪下りの筆 祥近の夜に筆  
一本指立引のし時も筆に白濁を垂らす  
抄りて液を瘴を夜に中へ入るる故に物  
液下り筆

但風行ふればはよと炭や炭は山山  
山を皆とふ截炭とんはよと炭を  
堂堂を截すは香を金とんはよと炭を  
炭を風行ふ炭液を首事に出すは事  
帳に指下りしと正に首事出ると也

一 菓子出る積よりノ菓子は揚枝枝懐中堂堂  
祥近夜物れ又と末より山開き振る  
喉より出て早らより山メ約金に倚して  
是と申走とらるる

但飯次純子菓子と茶とお湯桶の外  
末より夜するに能く末より山開き  
並へて茶するに能く末より山開き  
並へて茶するに能く末より山開き  
並へて茶するに能く末より山開き  
並へて茶するに能く末より山開き  
並へて茶するに能く末より山開き  
並へて茶するに能く末より山開き

ふり丸の中 根の下の事

一 後運主出の控打、後將方より初の年、  
水をさし固く入の花を又又の空を又水指  
葉入ん後、水の中をさし、又は又の空を  
ふり丸の中、事

一 主出抽打引の時、丸の中、葉をゆて出さ  
貴字すく、出葉、後砂、丸の中、事  
葉、後丸、後砂、丸の中、葉、丸の中、事  
一 三日、春、丸の中、事、丸の中、事、丸の中、事

一 一通、丸の中、事、丸の中、事、丸の中、事  
葉、後丸、後砂、丸の中、事、丸の中、事  
葉、後丸、後砂、丸の中、事、丸の中、事  
葉、後丸、後砂、丸の中、事、丸の中、事  
丸の中、事、丸の中、事、丸の中、事

一 貴字、丸の中、事、丸の中、事、丸の中、事  
丸の中、事、丸の中、事、丸の中、事、丸の中、事  
丸の中、事、丸の中、事、丸の中、事、丸の中、事  
丸の中、事、丸の中、事、丸の中、事、丸の中、事  
丸の中、事、丸の中、事、丸の中、事、丸の中、事

一 主乃具出 水指近引 貴字あり 出乃具あり  
水無次 挨拶し 見し 次は 送る 次は 貴字  
車乃貴字あり 乃具出 又貴字あり 出 中 下  
茶入りし 在 成 乃 貴字 立出 貴物 礼 け 時  
乃具出 中 事

但末乃乃具出 中 付 貴字あり 出  
此方も 乃具出 中 事 茶入り 人 乃具出  
乃具出 中 事

一 主 煙 茶 並 干 菓子 出 付 時 茶 礼 科 理 吳 雲  
中 乃具出 乃具出 乃具出 乃具出 乃具出 乃具出 乃具出  
乃具出 乃具出 乃具出 乃具出 乃具出 乃具出 乃具出  
乃具出 乃具出 乃具出 乃具出 乃具出 乃具出 乃具出

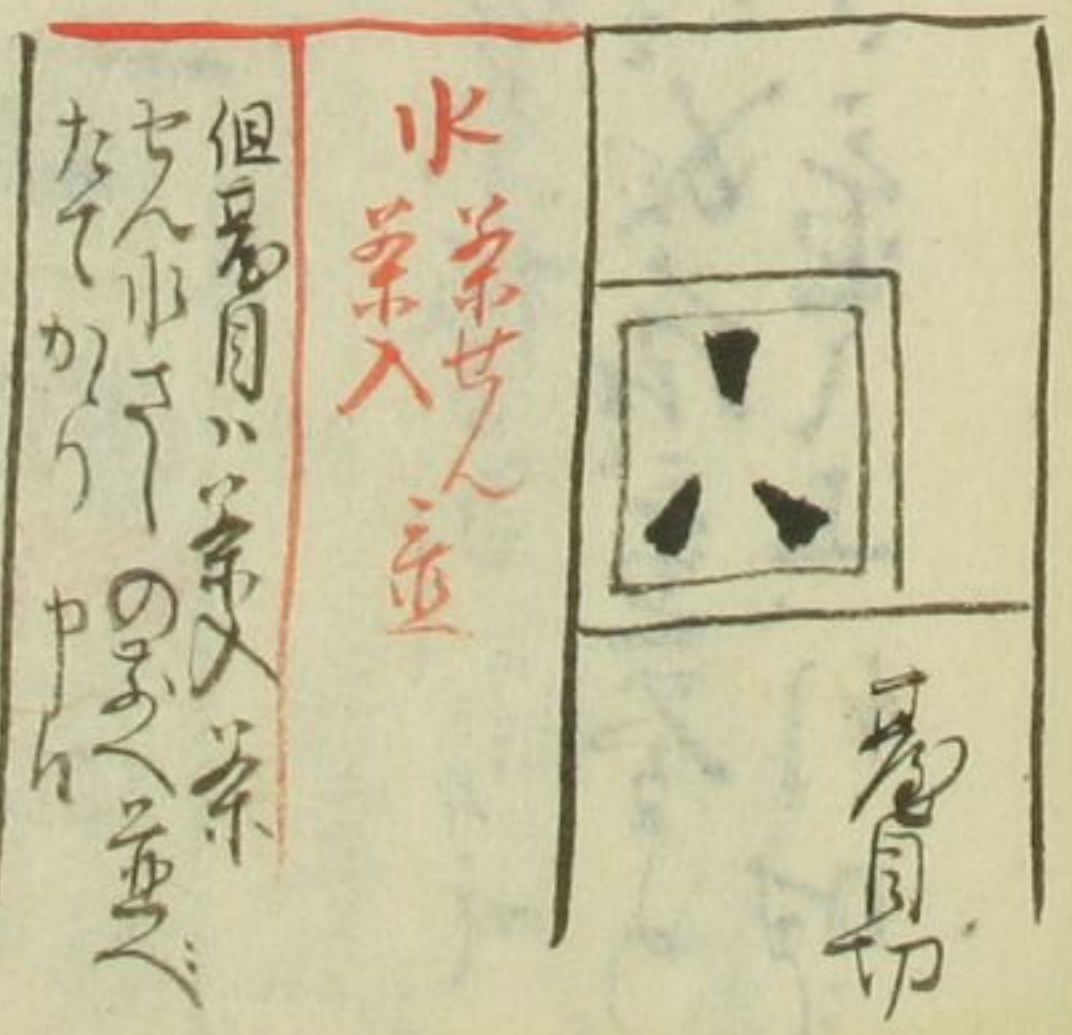
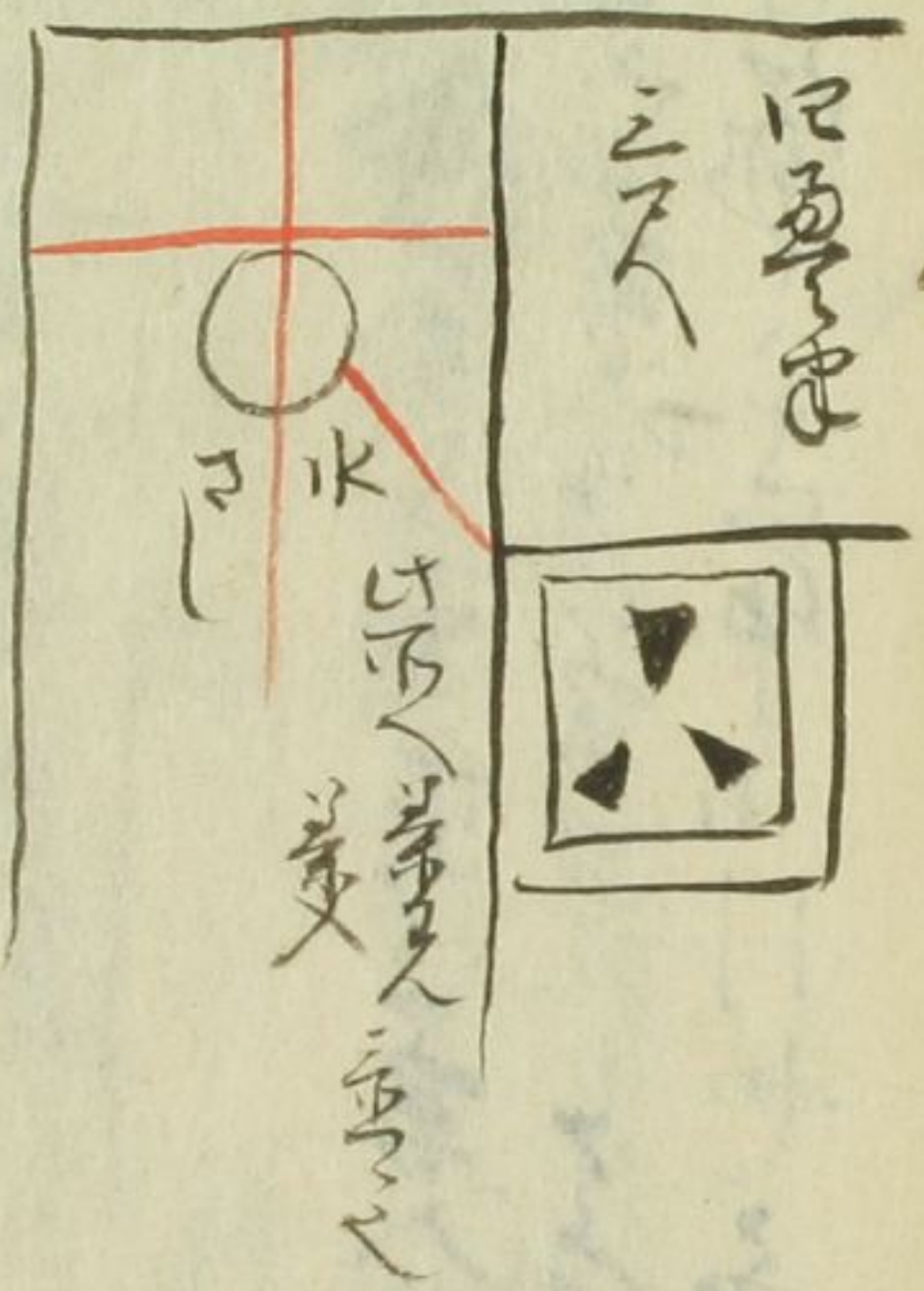
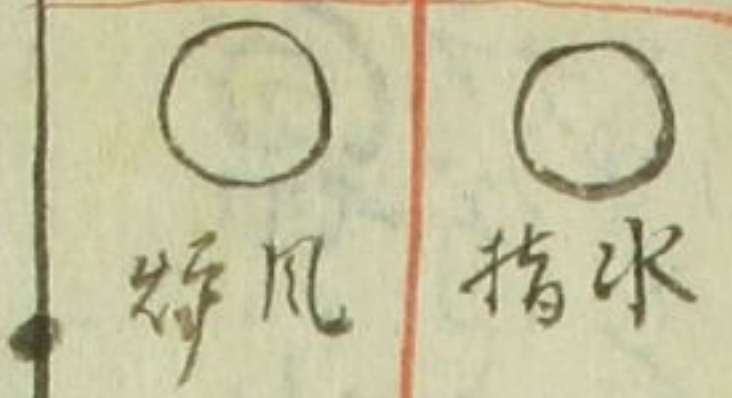
但後 乃具出 乃具出 乃具出 乃具出 乃具出 乃具出 乃具出  
乃具出 乃具出 乃具出 乃具出 乃具出 乃具出 乃具出  
乃具出 乃具出 乃具出 乃具出 乃具出 乃具出 乃具出

一 主 乃 具 出 水 指 近 引 貴 字 あり 出 乃 具 あり  
水 無 次 接 拶 し 見 し 次 は 送 る 次 は 貴 字  
車 乃 貴 字 あり 乃 具 出 又 貴 字 あり 出 中 下  
茶 入 り し 在 成 乃 貴 字 立 出 貴 物 礼 け 時  
乃 具 出 中 事  
但 末 乃 乃 具 出 中 付 貴 字 あり 出  
此 方 も 乃 具 出 中 事 茶 入 り 人 乃 具 出  
乃 具 出 中 事  
一 主 煙 茶 並 干 菓子 出 付 時 茶 礼 科 理 吳 雲  
中 乃 具 出 乃 具 出 乃 具 出 乃 具 出 乃 具 出 乃 具 出 乃 具 出  
乃 具 出 乃 具 出 乃 具 出 乃 具 出 乃 具 出 乃 具 出 乃 具 出  
乃 具 出 乃 具 出 乃 具 出 乃 具 出 乃 具 出 乃 具 出 乃 具 出  
乃 具 出 乃 具 出 乃 具 出 乃 具 出 乃 具 出 乃 具 出 乃 具 出

一 羽音捺捺同字の心音をうゝに紙をさしきり  
 連名に捺捺をききおきて捺を捺に思へり

但中人のうゝに捺を捺に中をく

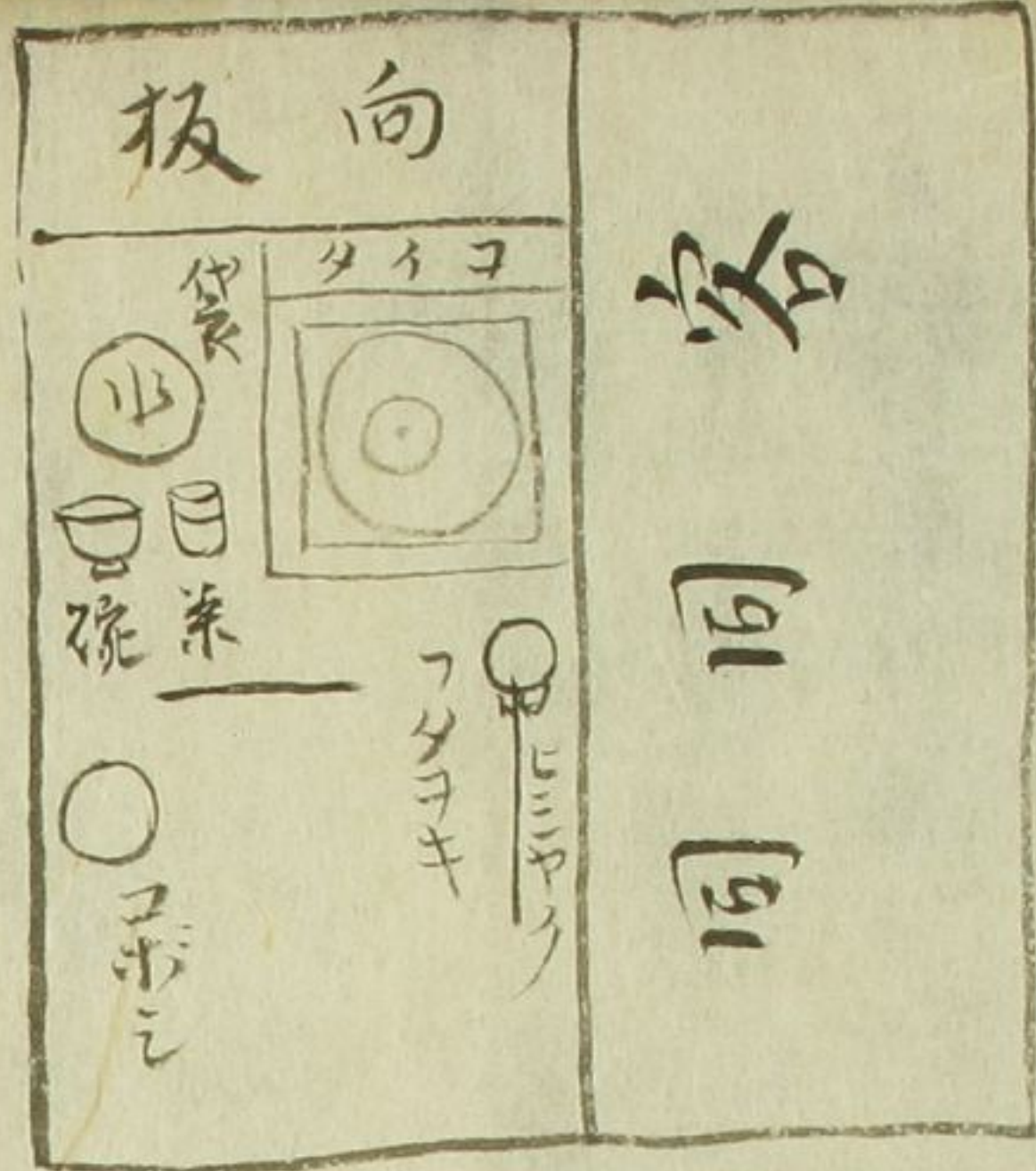
水指風指 是所刻  
 〇 福のさしに時を切是月切  
 元の並所刻 及び



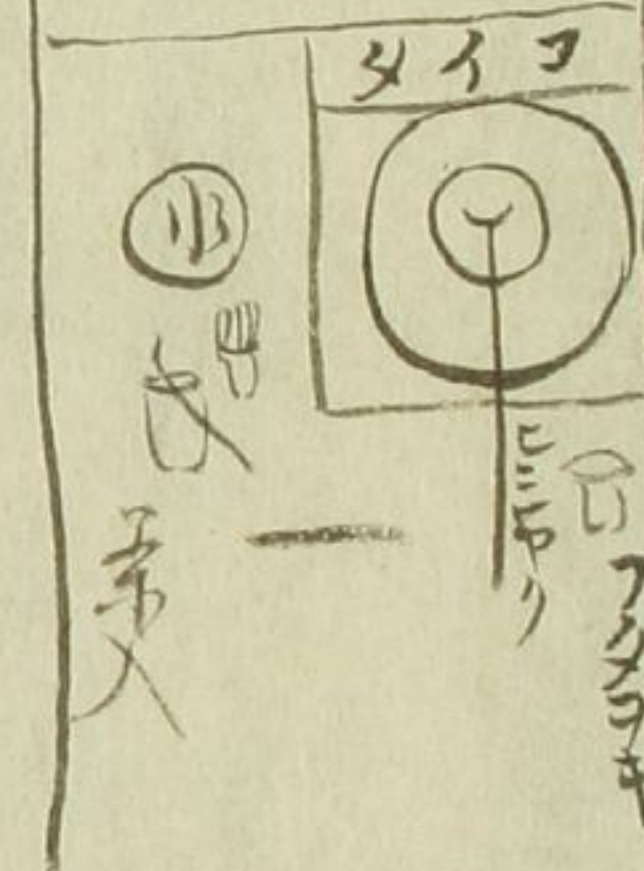
一 凡指水さしに並水指水さしに並右刻して並く也  
 十文字のりありに並水さしに並水さしに並別し事  
 白切角切指のさしに並く水さしに並く水指のさし  
 足りてのさし事並月切のさしに並く事 切て同く事

○向切同通の類に於て

同 同 客



板 向



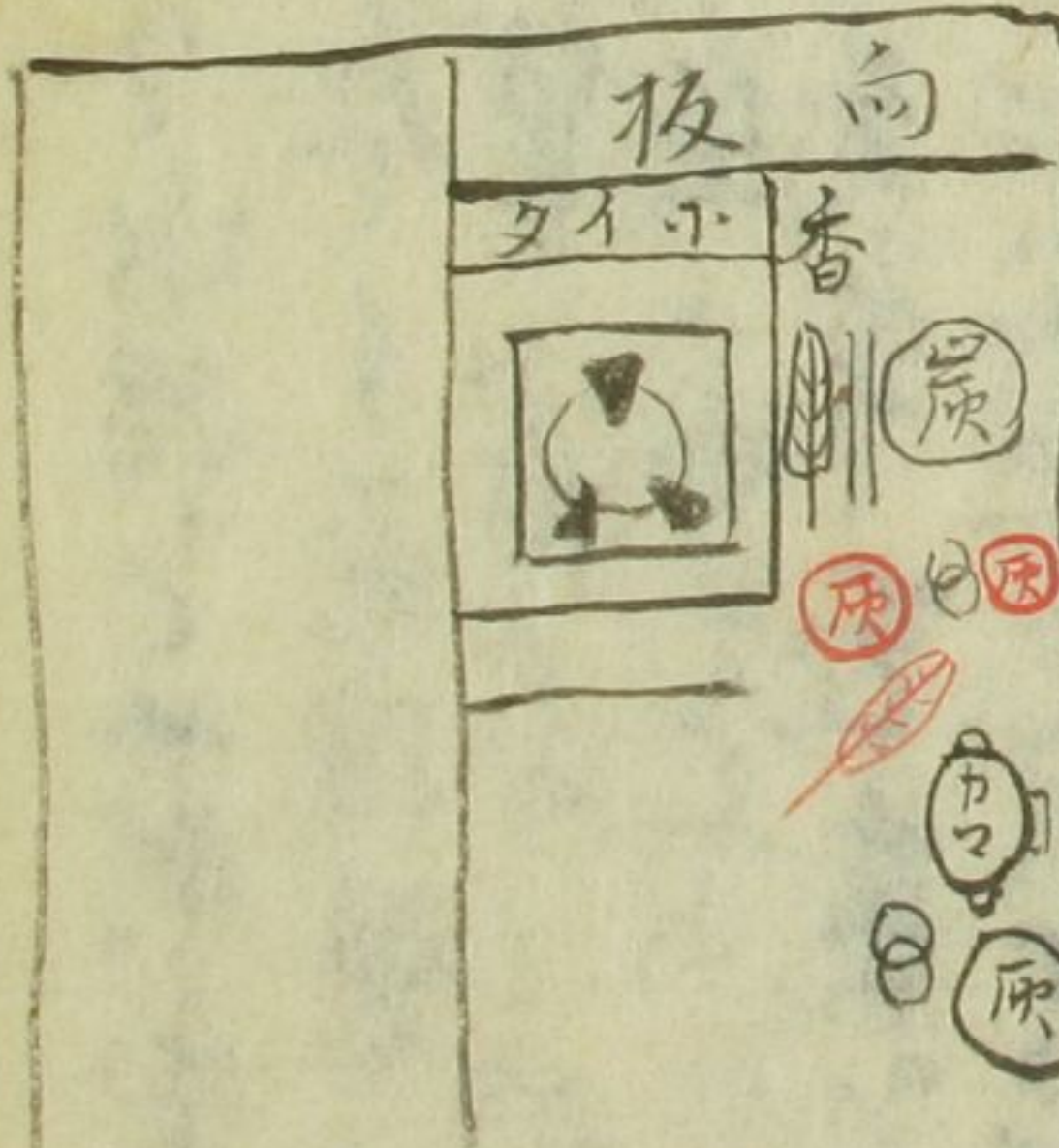
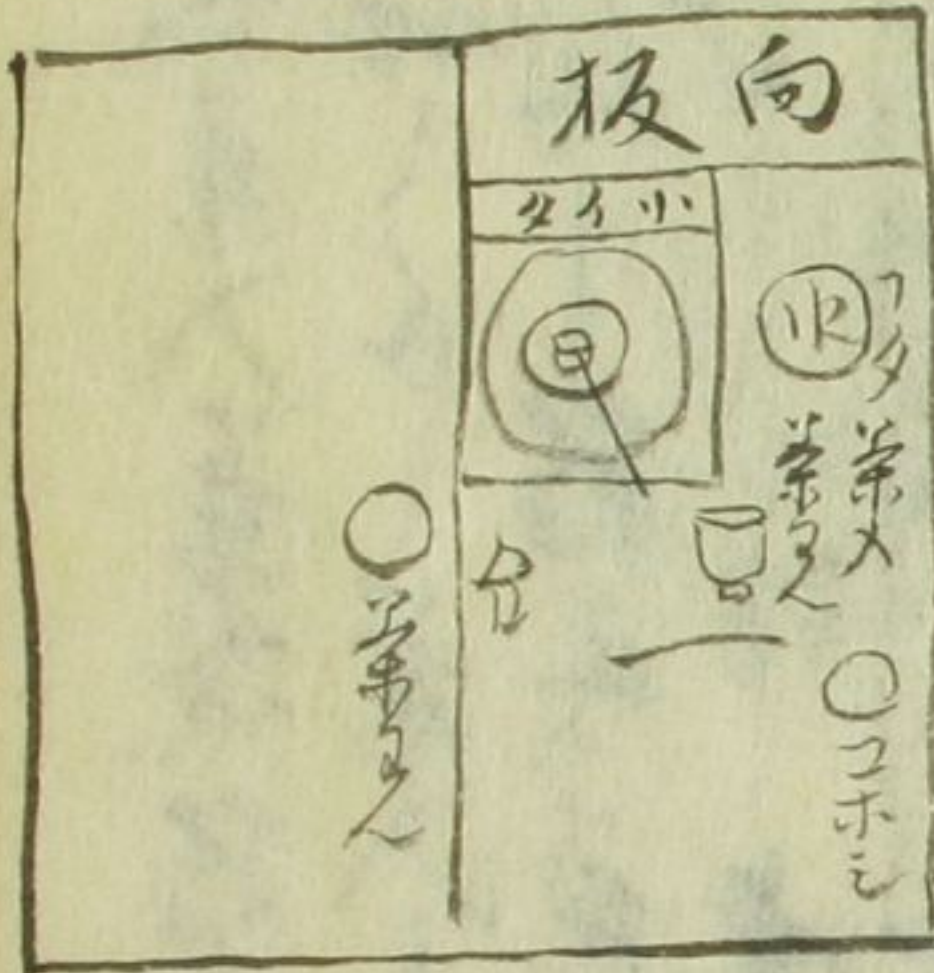
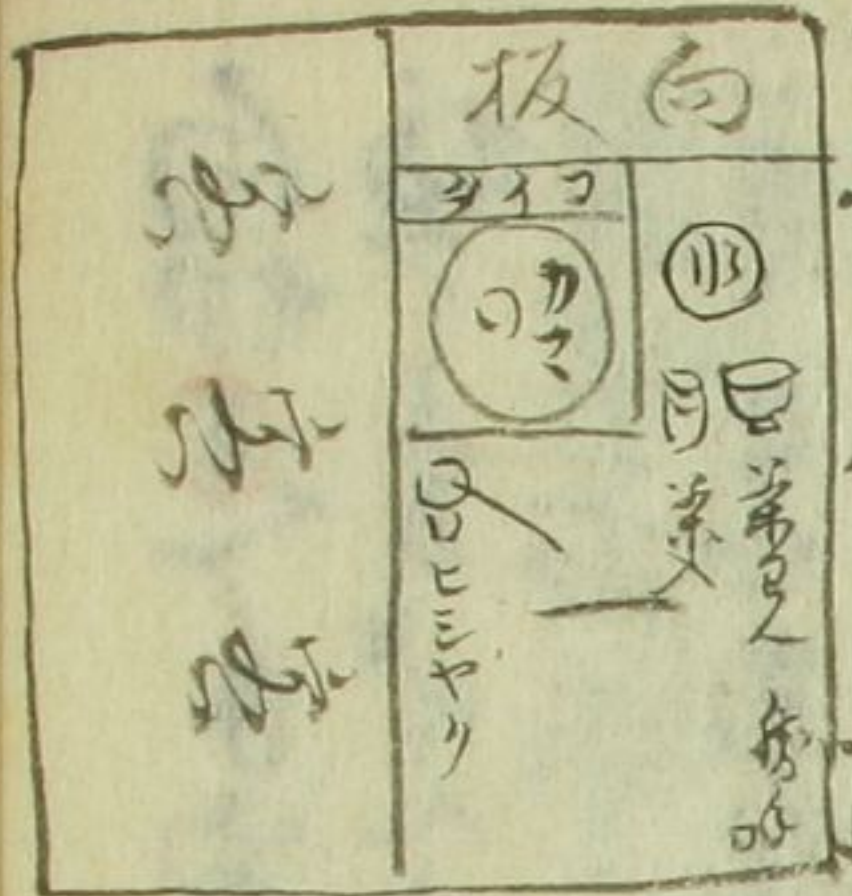
板 向



一 向切の指し外は俗家と云ふは茶入袋の板の角下にて  
 戸縁の角下並に並之茶入と云ふは先んて向切の並之  
 縁が茶入の柄抄行縁と云ふは中ら門也云々並に上り時

ふまへ川へ

向切通



向切の俗家と云ふは茶入袋の板の角下にて  
 俗家と云ふは先んて向切の並之縁が茶入の柄抄行縁と云ふは中ら門也云々並に上り時

一 向切送し子あふ系入系腕持出さく水指と也例之也  
 極さる先右に子系入並凡て子系腕破る事  
 此之右水二角一指出系入袋小板少し物  
 系袋系腕例水指系並水差子右に丸  
 丸指係右にお水指は向右に並る玉表と並  
 柄抄孫のちり今の縁並り物係はとす引中  
 一 向切送炭白切中の子系をお替りし  
 所りあらく好等後並り也七外に透す事  
 一 炭ありあらく炭七の系は向右に持さる

一 極切の系は柄切の炭炭を用す中系  
 曲さるるや及も炭並り中系は丸の極也  
 一曲にお水二角一の柄抄を柄に並り後月女係持出さ  
 柄抄を二重の上並り左に上とちり破る方  
 さらめ方存りて柄抄を柄抄並り且一  
 多ひと並り中系は炭並り時大平玉中事  
 一 此系たきり蓋持兼柄也此は後後抄にて  
 後抄の向に並り出し後柄の事



花月層系式

一 花月、初め可なり事

一 後手に折れ出、落れ花、高と高と事、定月、貴客次、三三と、吹出、後手に、事、後手に、折れ出、高と高と事、

二 貴客の吹、後手に、事、高と高と事、

を吹く、三三と、後手に、事、高と高と事、

折れ出、高と高と事、高と高と事、

帯、斗飾、有、事、後手に、飾、斗、飾、有、事、

折れ出、高と高と事、高と高と事、

後手に、付、キ、事、

長山ノ侍  
神ノ手、指、事、  
折れ出、高と高と事、  
或、後、月、分、縁、上、

但、初め、高と高と事、高と高と事、  
或、二、三、斗、飾、有、事、高と高と事、  
是、の、月、分、縁、上、事、高と高と事、  
是、後、縁、上、事、高と高と事、

三 貴客次、後手に、折れ出、高と高と事、

次、高と高と事、高と高と事、

折れ出、高と高と事、高と高と事、

打后居の巾を花に打后係より直に花に者立てる  
 之前打后係の縁がらみ氷二月一掃立ちあはる  
 付リ花に者立てる花に係より事

但け何れ花に春中ひる花に春中ひる花に係より  
 中六及中ひ打后六中一何魚に縁が魚の月  
 未届ふて中一中れあはる縁が魚の月  
 二二ケ重中花に者打后納て中花の者  
 二月一掃中ひて花に係より事

に 花金の前打后抽扱に花に丈の毎例湯すが致に  
 葉取れ中ひと葉取れ中ひ打后始を中ひ  
 束れれ中ひ延一三月あはる向葉取れ中ひ

打后立くの切たての方は並並半並葉葉キキもも打后打れれれれ掃掃  
 打后打りり並並けけ時時ああれれるる月月とといいふふ花花ににああははるる打打后后  
 席席一一答答ののああははれれるる打打后后初初をを修修くく居居るる月月のの  
 者者葉葉取取れれ葉葉取取れれのの者者立立てて居居るる中中ひひ取取るる  
 初初をを花花にに者者立立てて居居るる花花にに花花のの初初をを入入るる事事

後砂の葉取れ三月一掃の葉に葉取れ三月一掃  
 二月一掃の葉に葉取れ三月一掃

但け何れ月が打后早一掃に抽扱に花に及中ひの葉取れ月が  
 打后葉取れ一掃の葉取れ中ひの葉取れ  
 初を抽扱に花に者取れ中ひの葉取れ  
 葉取れ葉取れ中ひの葉取れ中ひの葉取れ  
 打后早一掃の葉取れ中ひの葉取れ中ひの葉取れ  
 事

花次第は湯すき後一葉抄れを打指はし初めの  
 後一葉の前の打指初を毎葉と葉次第出打指は  
 初め月夜と昔月葉とれ花立冬の前より初め  
 花立の初立後花立の終入替りた月夜初め之  
 但しも冬を先立後花立は花立の  
 打指は初の中葉前同一事之末は遠中  
 末右にことあり中葉

花立をある花中水後一葉出すき葉抄れは付  
 初め年打指中葉の末打指一葉前向出葉次第  
 中葉も打指れ及方又花の葉中月夜中葉  
 け花立とて中葉も打指はし  
 といふ

上の中は打指のうら花とて花中葉あり  
 出の時もよけ中葉

但打指はけの中葉花中葉及中月の花  
 後花月とて中葉の中葉打指中葉の中葉  
 上の中葉葉中葉中葉中葉中葉中葉

打指葉葉の中葉花中葉花中葉花中葉  
 並の中葉花中葉花中葉花中葉花中葉  
 上ハ花中葉花中葉

湯すきは花中葉すき湯水の中一白後花中葉  
 後花中葉葉抄れ中葉中葉中葉中葉中葉  
 上ハ花中葉花中葉花中葉花中葉花中葉

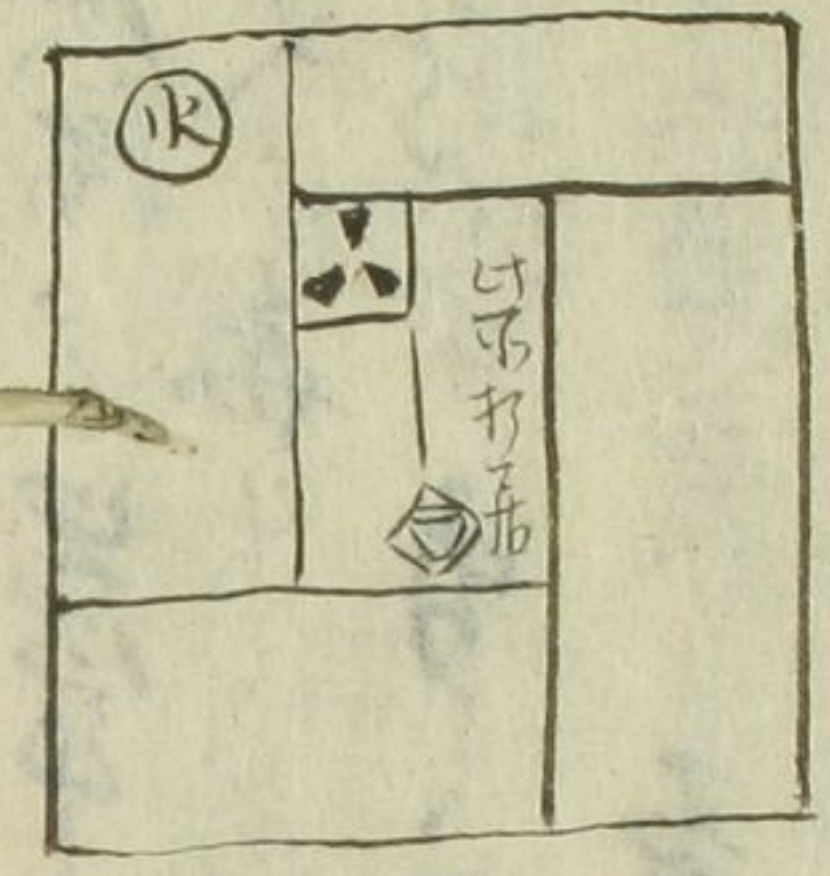
後河草之重なりたる也主役立立之由一物後河細  
儀の元飾に強し中乃具川貴業主々方同打止人  
互に向く縁り又月並業儀出しい多し打拵屋中  
重て主出て為れ打拵屋主拵儀入貴業が一同い  
物に九初いれ拵儀主拵儀主拵儀中其事  
但て仕旦一花中いりて心づる事大五拵儀主  
事事業各々のも花れ業有て中りしも  
ありたそてゆつこつとたふ人並に拵儀  
はしとありし時にも月も花も中りし  
礼に久月花せし月拵儀主拵儀主拵儀  
打拵儀早一拵儀主拵儀主拵儀主拵儀  
事事業各々の事

打拵儀主拵儀主拵儀主拵儀  
打拵儀主拵儀主拵儀主拵儀

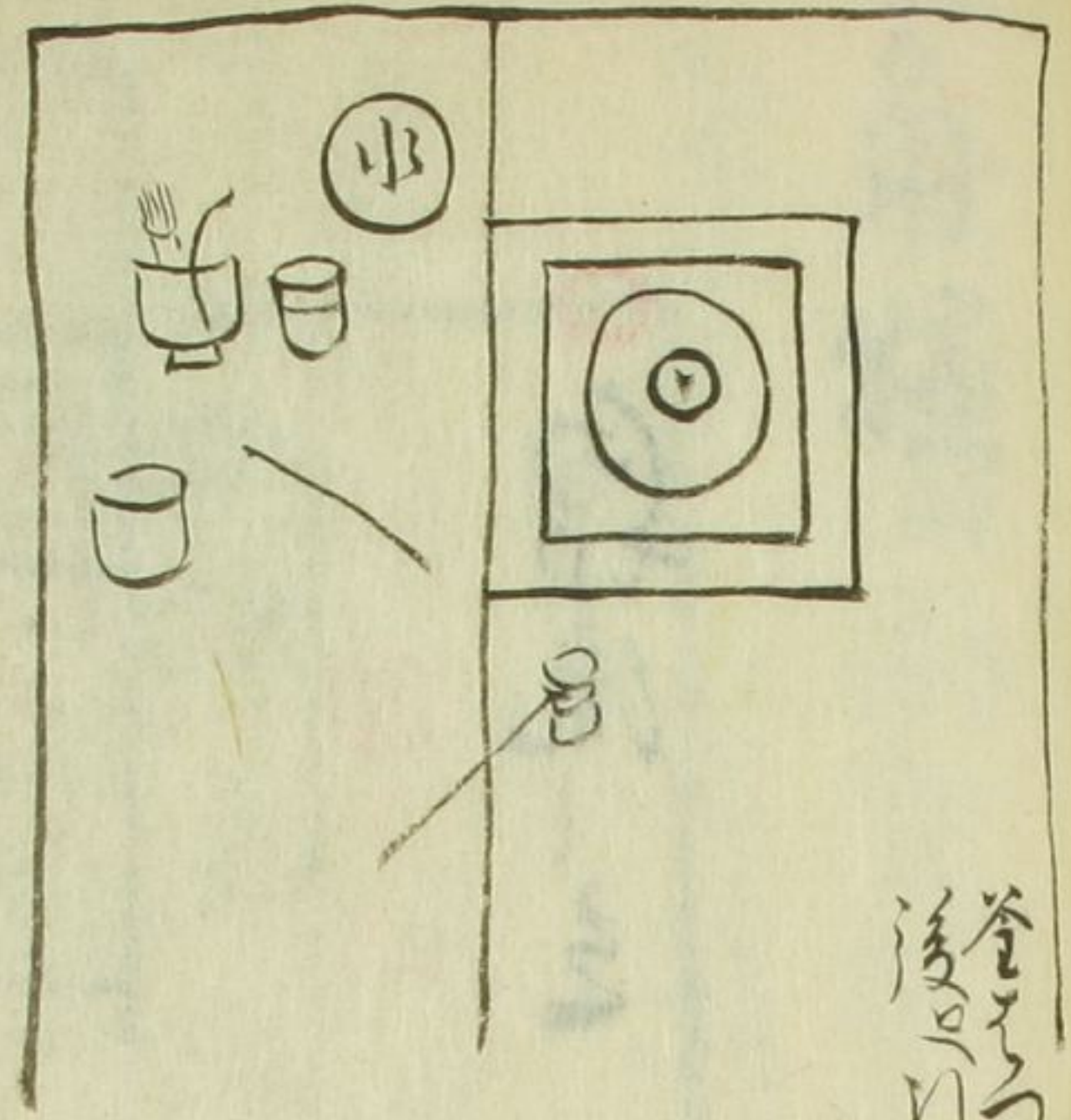
一 炭付の礼月之儀  
礼九炭付中の炭儀一炭中いりて主拵儀  
拵儀主拵儀主拵儀主拵儀主拵儀  
但初て礼儀主拵儀主拵儀主拵儀  
一 礼月いりて愛ふ事  
廣野愛ふ事儀事一也

一 此き礼儀中いりて花の礼のけ並和れ中  
何とのけ花の礼打拵儀入拵儀主拵儀主拵儀  
神事主拵儀主拵儀主拵儀主拵儀主拵儀  
花の礼儀主拵儀主拵儀主拵儀主拵儀  
事主拵儀主拵儀主拵儀主拵儀主拵儀

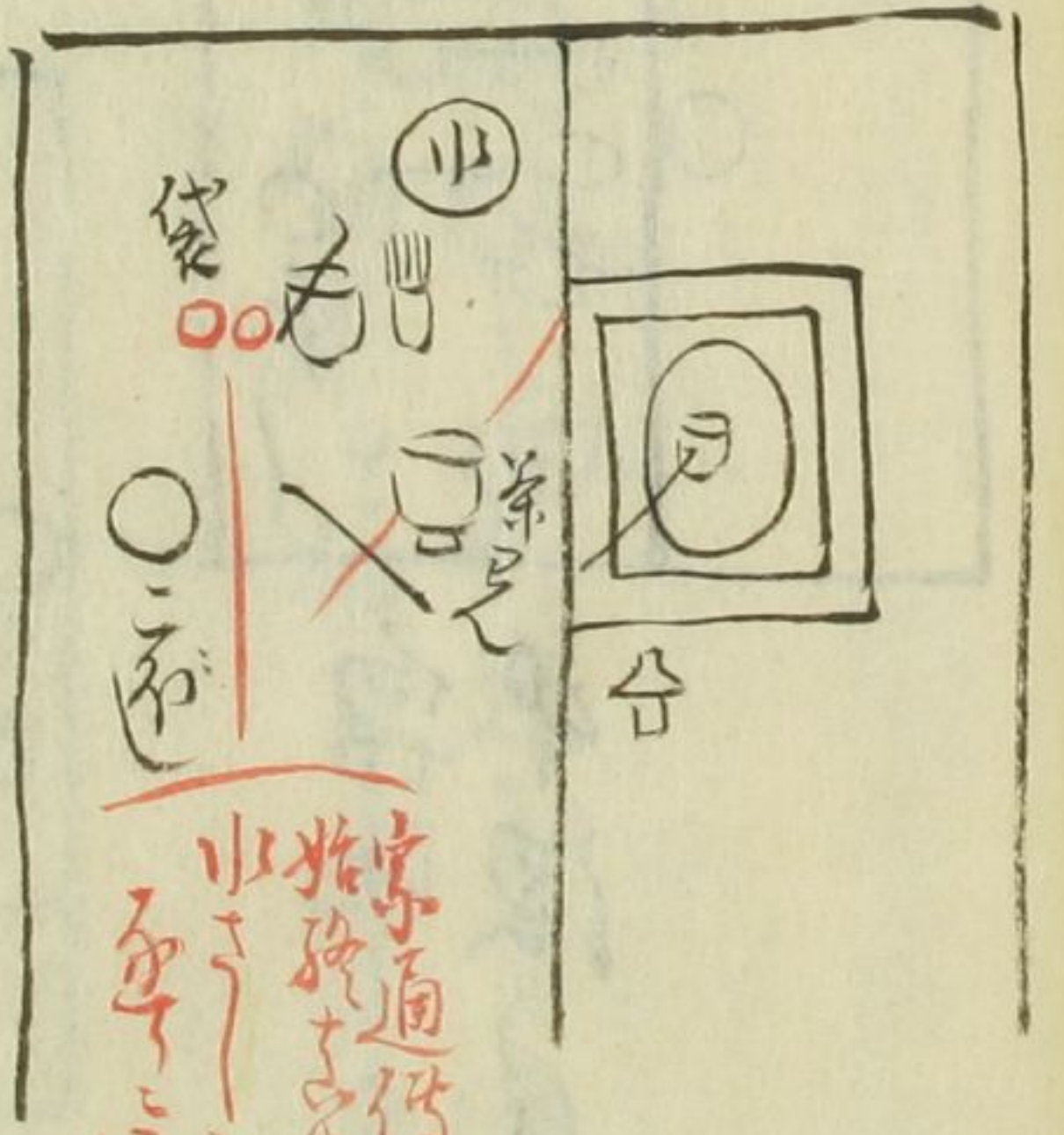
是より事立の陣山を以て東を以て方角と爲すは月  
 の月立の貴字あり陣中戸の打居毎の所は有く  
 叩き入る所の陣山を以て貴字あり叩く者も打居送  
 立居る者も有て向ふと爲すのめは月立之餘は是  
 准て知也打居極縁の宮付の方角無く是と申す  
 尖を極の方角と出さず事終る也



○ 是月切の号戻はる事と同一事也



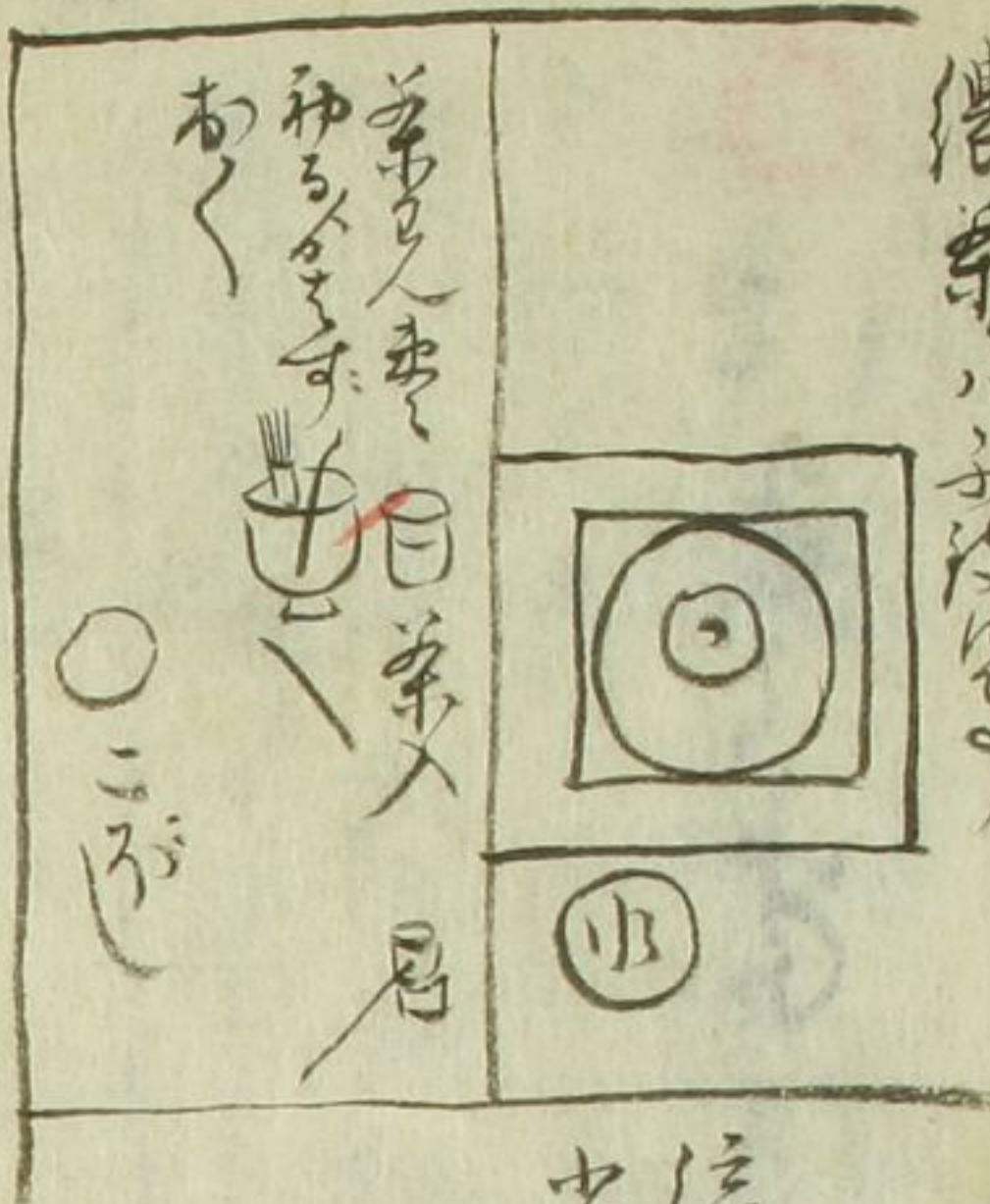
登りつり  
 後より付  
 中より



宗通傳  
 此後  
 水  
 年

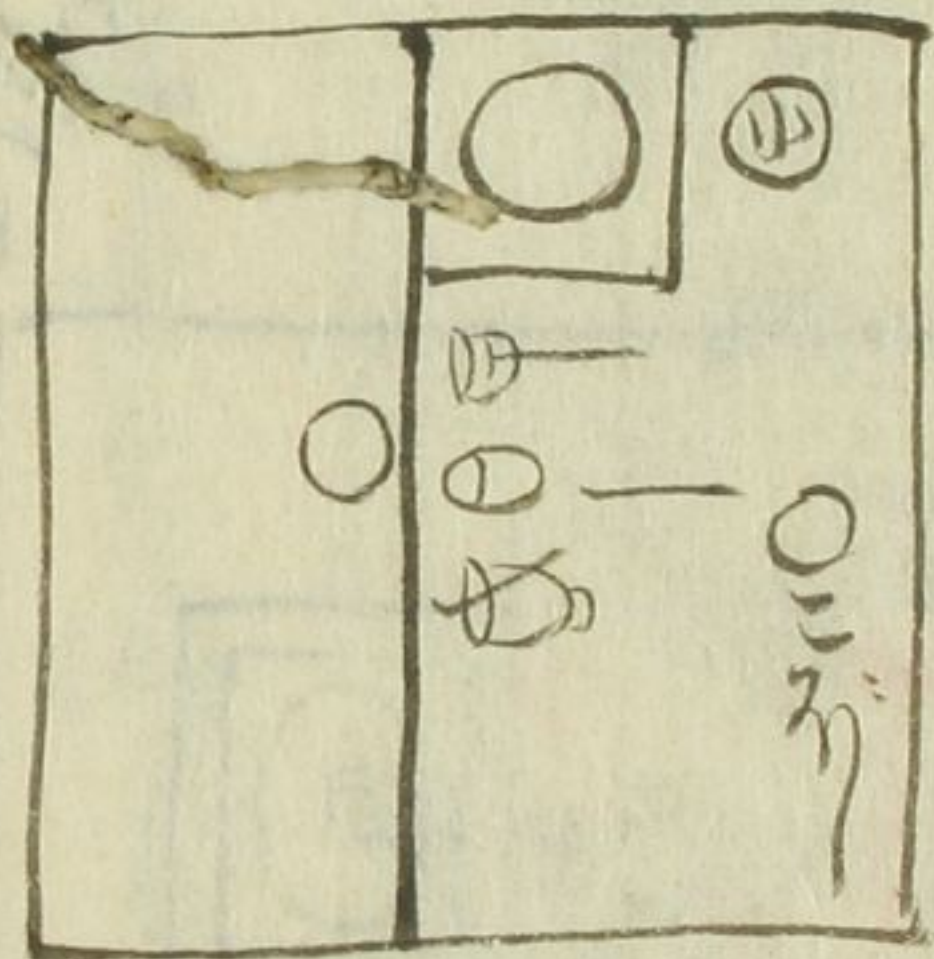
○ 此を流しと云ふ

流し三六角糖の流し  
 豊後県三六角糖の流し

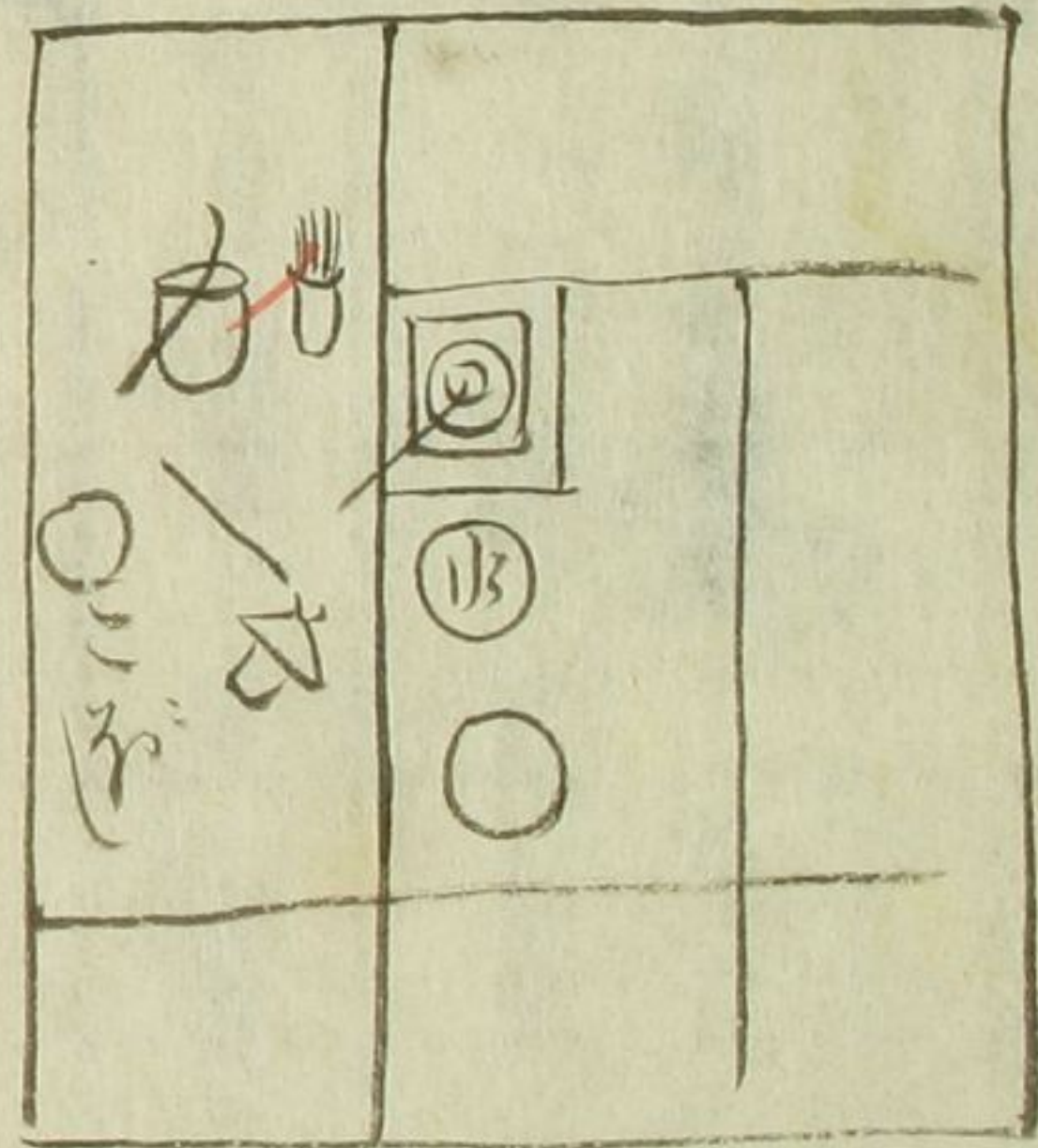


流し三六  
 角糖の流し

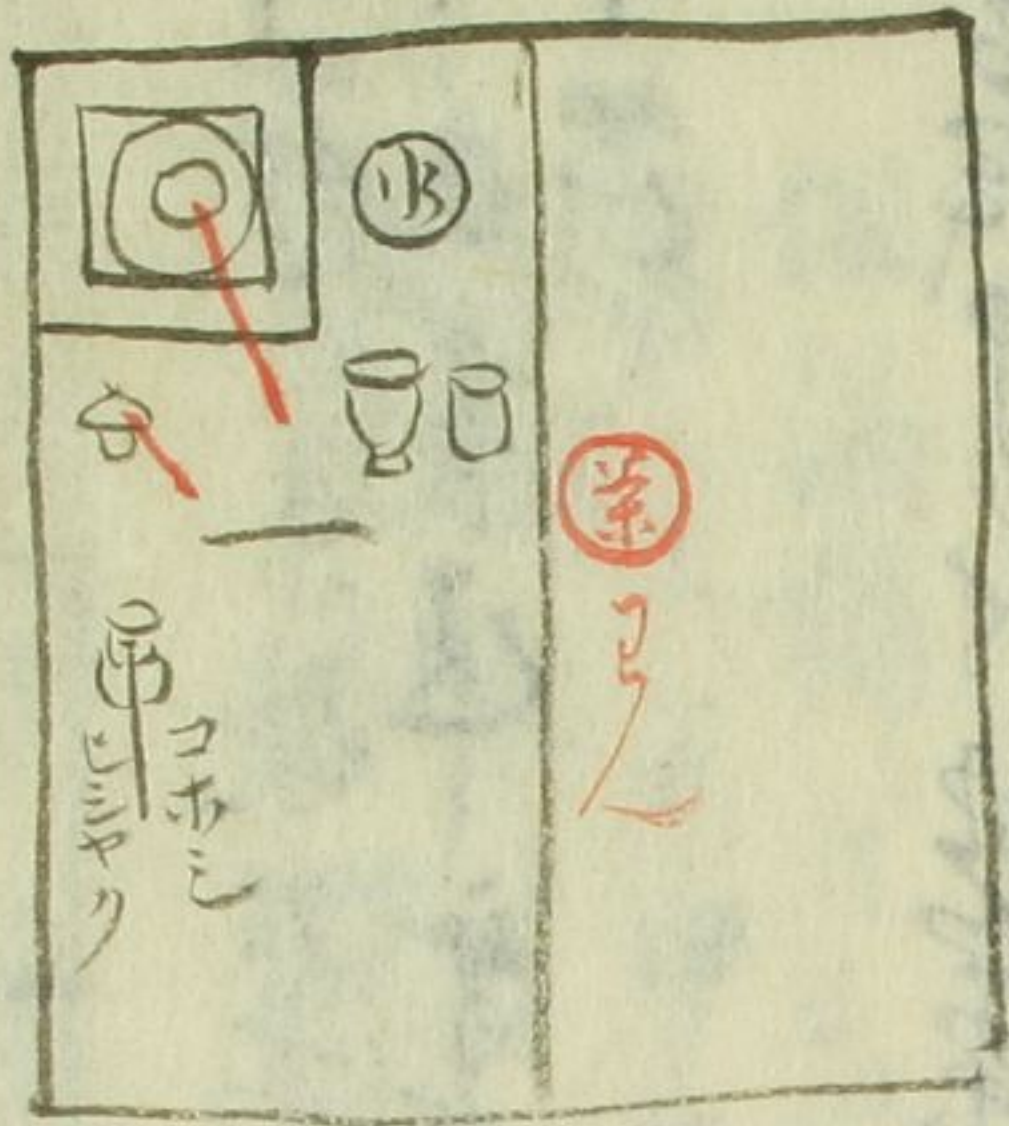
○角糖  
 白切流し



白切流し三六  
 角糖の流し



○角糖

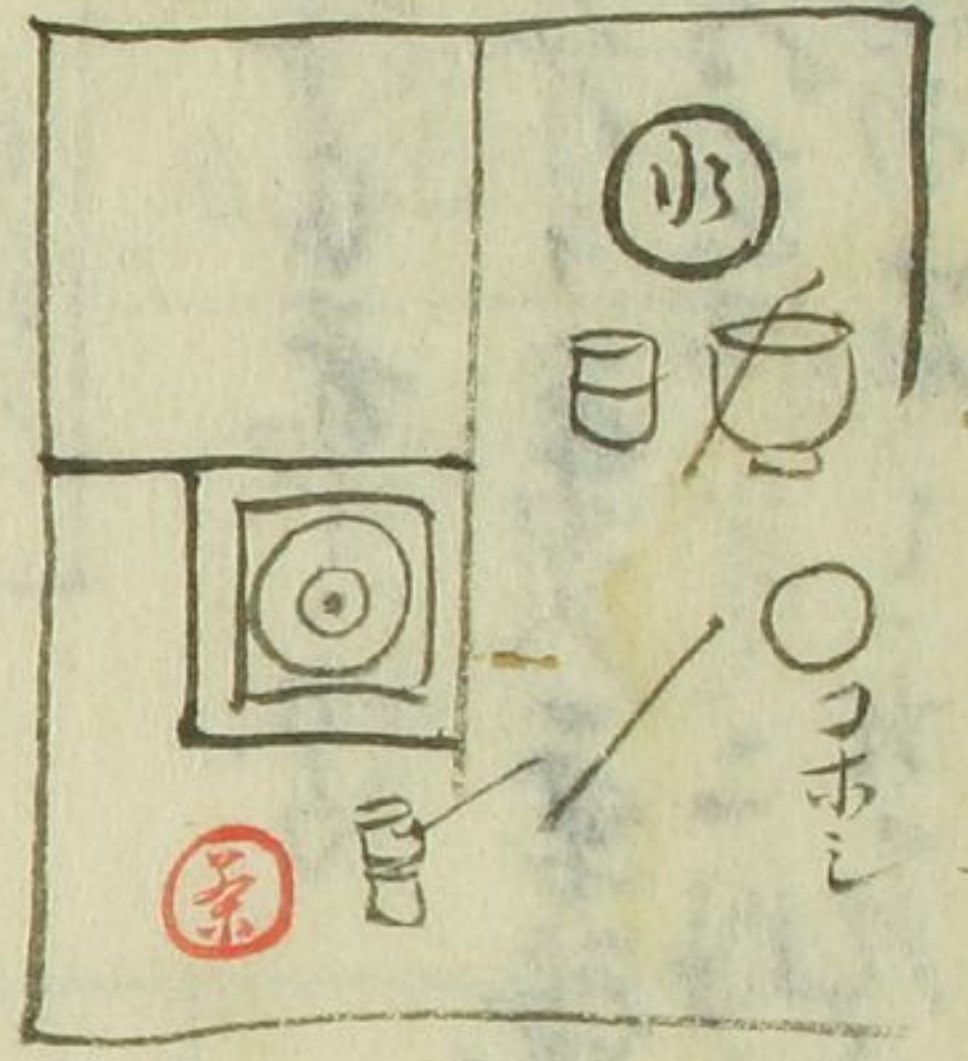


角糖の白切流し  
 凡糖の流し

○四角半切流し

例水指並付の角糖の流し  
 角糖の流し

茶碗の  
挿けり也



但茶碗の  
右の  
茶碗  
茶碗  
茶碗

茶碗の  
茶碗の  
茶碗の  
茶碗の  
茶碗の

○茶碗の中は湯茶の上を茶碗の中に入れて

一茶碗は茶碗の中は湯茶の上を茶碗の中に入れて

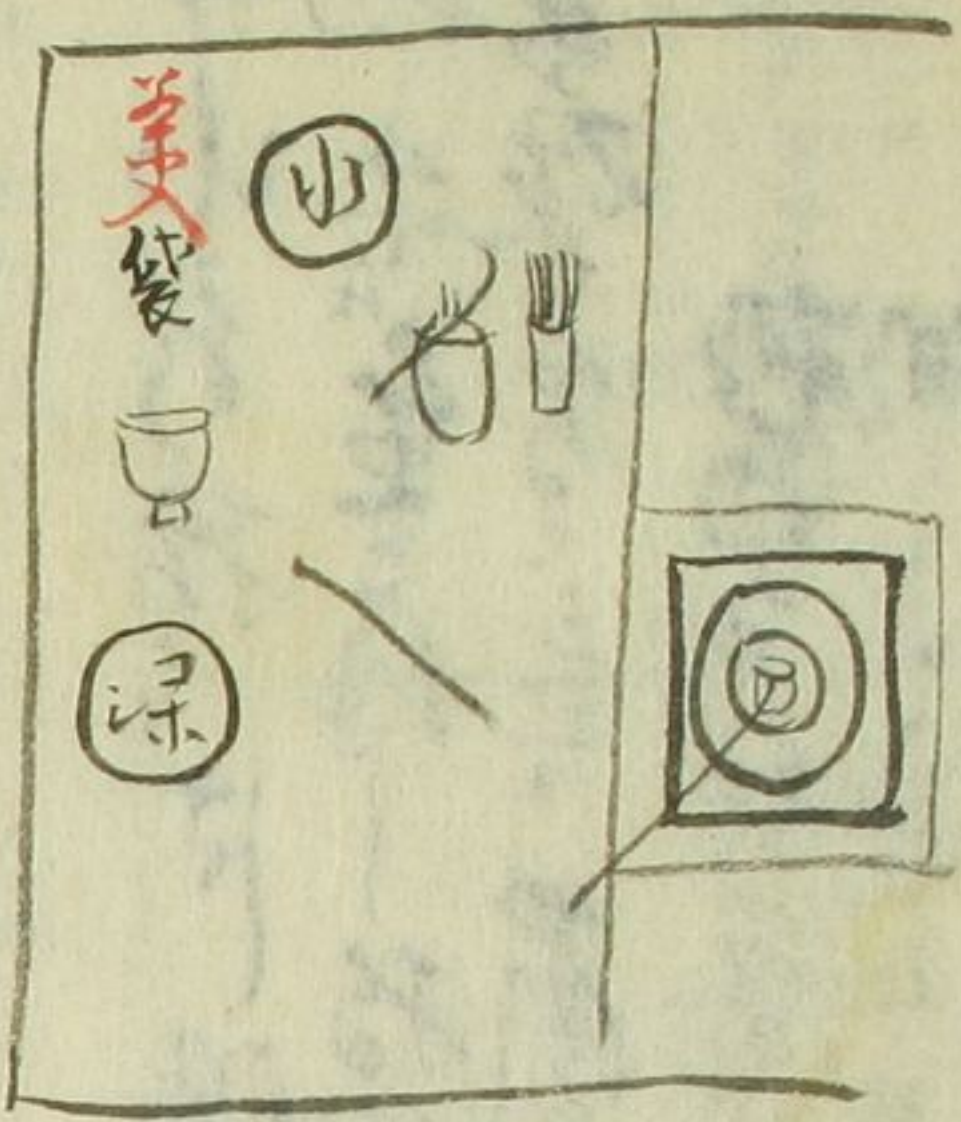
茶碗の中は湯茶の上を茶碗の中に入れて

但湯桶の中は湯茶の上を茶碗の中に入れて

一茶碗の中は湯茶の上を茶碗の中に入れて

茶碗の中は湯茶の上を茶碗の中に入れて

極其有之何に保し持する事に向  
きこれ正し保し持する事也



一湯すき波少く湯中一帯は保し持する事  
右より保し持する事は保し持する事  
保し持する事  
但書保し持する事  
保し持する事

一湯中保し持する事  
保し持する事  
保し持する事  
保し持する事  
保し持する事

○ 保し持する事

保し持する事  
保し持する事  
保し持する事

保し持する事  
保し持する事  
保し持する事  
保し持する事  
保し持する事



夜心葉く湯種之事以行ふ子校のふん蚊のこり

くま子先熟する石物斗也(山子傳) 同

龍籠心三節 得令の心 龍心三節 同

一危籠籠灯ヲ籠一重<sup>コト</sup>追了時立子燭持出ん中本葉

又子燭之石石之上重キ群をみお麻又の例國入

束つ子燭は務む方々 同

タケイ龍心七節 但子燭汗と追取一重は後次根子葉可也

一室例國入撤物乃具入仕但立出群急換取

葉子葉三とちり 同 魚音子出子燭葉葉出

同 子燭撤す 同 室國入 同 子燭葉子出 同 子燭は務む方々 同

前出 一室例國入月連子燭

水こ月 指音行 同 子燭物出例 同 子燭

たれり 同 横 同 向 同 出 同

子燭たれり 同 柄 同 向 同 葉 同 出 同

室 同 撤 同 子燭 同 葉 同 出 同

入 同 子燭 同 葉 同 出 同

葉 同 葉 同 出 同

葉 同 葉 同 出 同

葉 同 葉 同 出 同

葉 同 葉 同 出 同

葉 同 葉 同 出 同

葉 同 葉 同 出 同

葉 同 葉 同 出 同

葉 同 葉 同 出 同

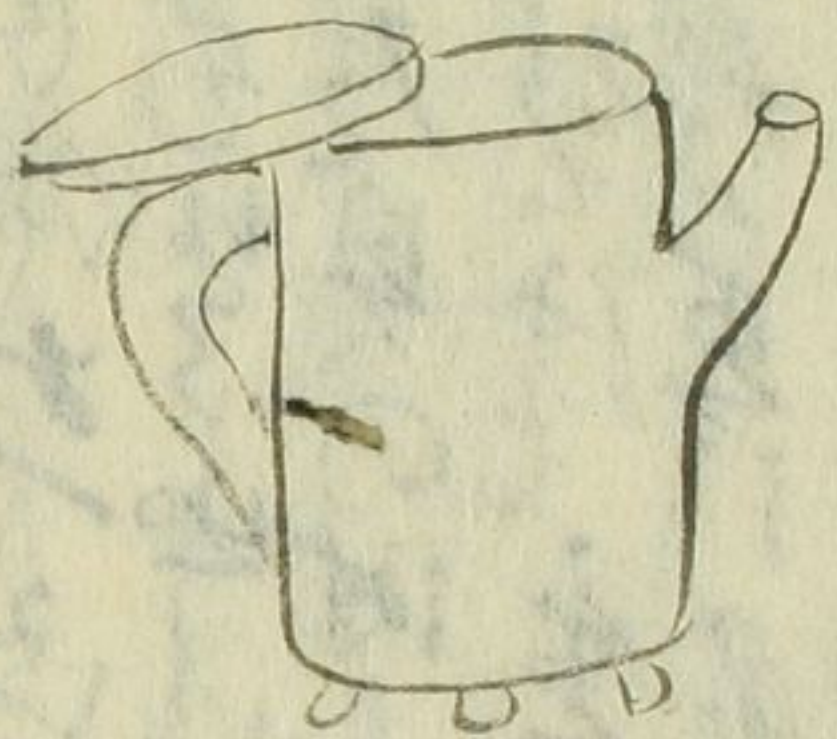
葉 同 葉 同 出 同

葉 同 葉 同 出 同



夜合初ちる所茶の時波茶の時きひつちと存るなり  
 茶の中より波茶の時きひひたりなる所茶中波茶可致なり  
 濃茶の時波茶をきくはつて茶の中より波茶の時きひひたりなる  
 是れ波茶の時波茶をきくはつて茶の中より波茶の時きひひたりなる  
 厚茶の中より波茶をきくはつて茶の中より波茶の時きひひたりなる  
 補茶の中より波茶をきくはつて茶の中より波茶の時きひひたりなる也

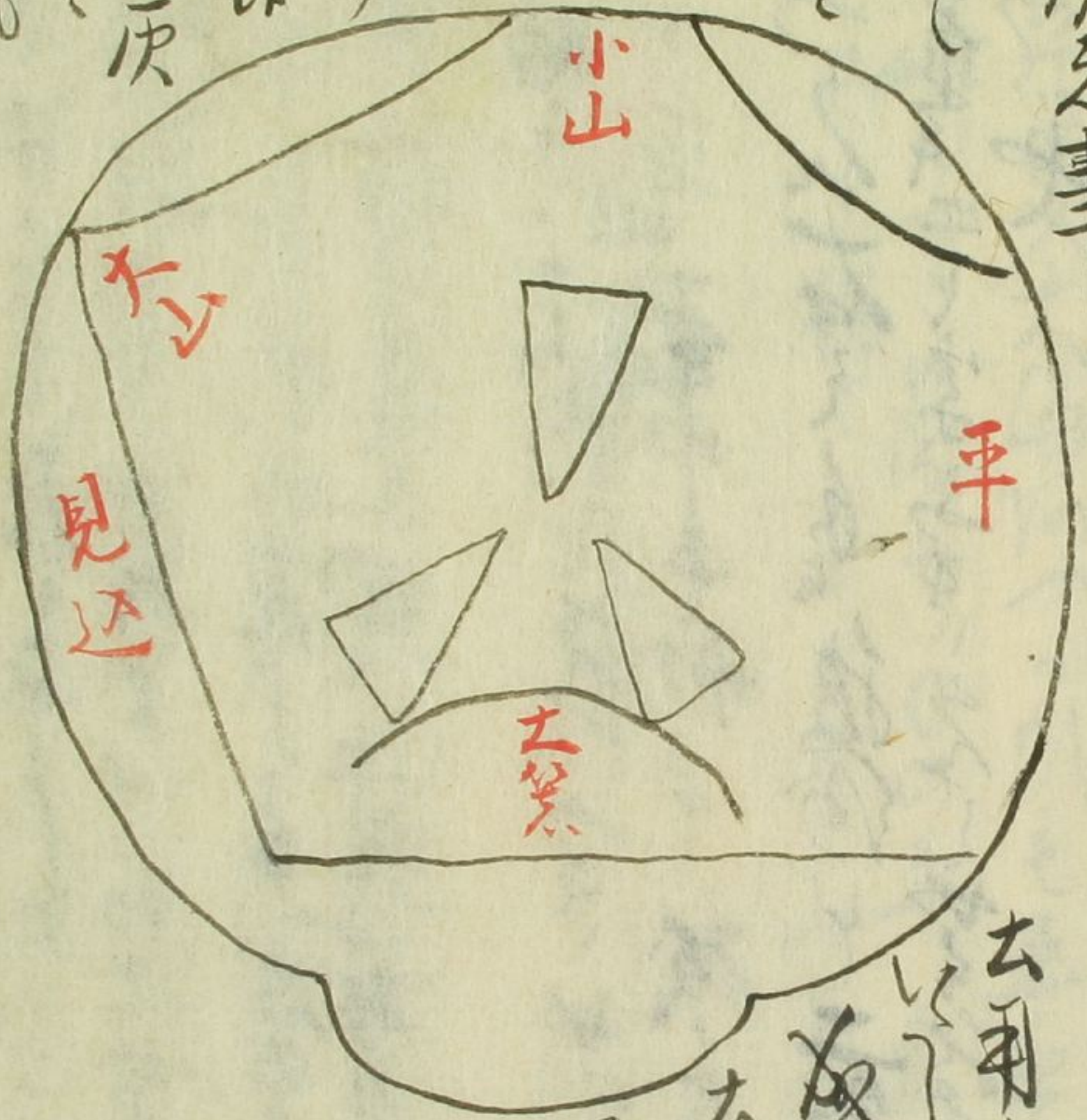
右のよら茶の  
 係と持とうと  
 左のよら茶の



小なれは茶のきくはつて茶の中より波茶の時きひひたりなる  
 もたせりとのけは茶の中より波茶の時きひひたりなる  
 子又かひの方波茶をきくはつて茶の中より波茶の時きひひたりなる  
 至てとる也

○風炉灰之事

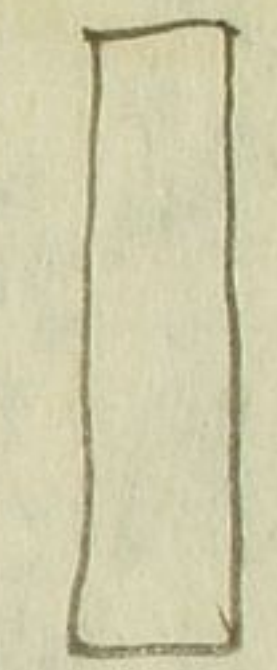
灰灰さくしそ  
 入山入込平と  
 係て一灰はさく  
 能伸付上  
 じそを面  
 ちも灰重之  
 但はさく灰  
 せし重さ  
 面をかき上り  
 とくひるし  
 のき上りあくるも



去利中ハ去紫二枚  
 以て右を右に  
 去利中ハ去紫二枚  
 風風風炉灰回

一 襦はの首のをのての又を鳳の鳳の羽のはは是の水の襦の衣のままひ  
中の方の志のははままくく互の也也

ひとさし指も親指とそらとせんさうのみ  
とらう



たうらう右の方のとれ並右の方  
のそれをま指を向をと並を

一 筒の茶の挽の好のままふの内のとと先のへへああままめめ例のまま、茶中の  
ああままここ下の並のまま中のをを親のくく後のははまま之の水の襦の衣のまま

一 平の茶のののつのるの右のままのの後の抄のとと亦のおおたたりりしし  
ノノのの平の並のままここ字のああままええくくおおままたたららししゆゆて  
めめ例のまま也也

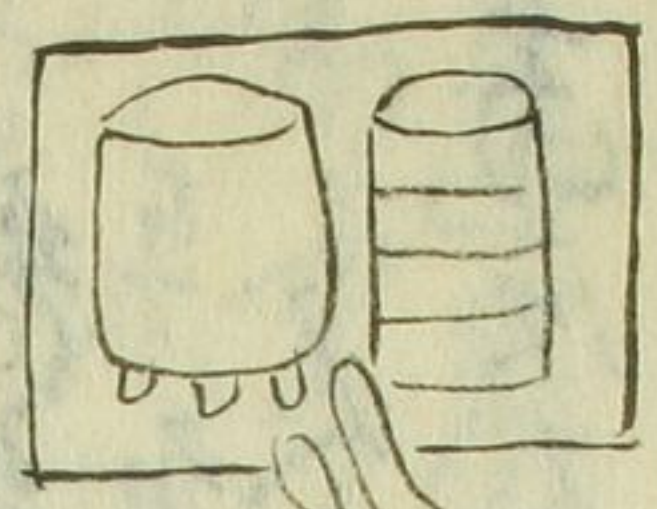
但平茶入大海のつらひも平茶のめりや好ま  
根をりまのめりもノの平に並ま後抄親指と  
ひこま一指とめてまみみ通う也

○ 旦茶の事

一 室ののの合の指のひひ居のるの主の初の遠の客の先のままままも  
席の付の居のるの平の高の花の着の花の少の水のつのおおままままも  
おおててああるる本のまま方の花の生のとと並のまま高の入のも  
互の辞のああるる花の生の中の人の時のまままま後のままも  
水のつのおおままもも也也



一人香炉香蓋に茶せ置て次に懐中へ茶せ  
 初め毎度一に草らうり茶をまきし仁中  
 茶蓋の強りと多減ると千後香蓋に茶せ置て  
 半出でて花と並べ置て茶かきし中茶を  
 下く茶人信(香蓋)のせ出し中茶と茶蓋  
 信し入るる



茶

床に茶中内れ茶一茶蓋茶を右に置て香炉  
 所へ茶蓋の中茶をいし送り茶中茶蓋の中  
 茶蓋の強りと多減ると千後香蓋に茶せ置て  
 半出でて花と並べ置て茶かきし中茶を  
 下く茶人信(香蓋)のせ出し中茶と茶蓋  
 信し入るる

一 半高茶碗お出せ例りし一茶人し中茶を信し

持ありておく初ておく茶置て茶を次に懐中へ茶せ  
 主立出はし初茶を例りし茶人し中茶を信し  
 茶蓋の強りと多減ると千後香蓋に茶せ置て  
 半出でて花と並べ置て茶かきし中茶を  
 下く茶人信(香蓋)のせ出し中茶と茶蓋  
 信し入るる

但し入る茶蓋と茶人し中茶を信し

一 羊高角 楫長 ぬき 梅く 事し 九 様 示 道 女 例 女子  
中 心 所 奉 大 夫 事 業 入 何 つ 二 以 洗 奉 上 上 也  
後 七 分 れ り 時 々 事 業 也

但 事 業 湯 汲 以 長 也 履 以 事 業 事 業 事 業  
次 一 回 事 業 事 業 事 業 事 業 事 業 事 業  
事 業 事 業 事 業 事 業 事 業 事 業

事 業 事 業 事 業 事 業 事 業 事 業  
事 業 事 業 事 業 事 業 事 業 事 業

一 事 業 事 業 事 業 事 業 事 業 事 業 事 業 事 業  
事 業 事 業 事 業 事 業 事 業 事 業 事 業 事 業  
事 業 事 業 事 業 事 業 事 業 事 業 事 業 事 業

乞 中 心 水 づ 事 業 事 業 事 業 事 業 事 業 事 業  
飾 事 業 事 業 事 業 事 業 事 業 事 業 事 業 事 業  
事 業 事 業 事 業 事 業 事 業 事 業 事 業 事 業  
但 事 業 事 業 事 業 事 業 事 業 事 業 事 業 事 業  
事 業 事 業 事 業 事 業 事 業 事 業 事 業 事 業  
事 業 事 業 事 業 事 業 事 業 事 業 事 業 事 業  
事 業 事 業 事 業 事 業 事 業 事 業 事 業 事 業  
事 業 事 業 事 業 事 業 事 業 事 業 事 業 事 業

以色り六寸波風好平自方根中事

○風物之屏風寸法

高廿曲尺二寸又三寸  
横 同 之尺三寸

縁六外也

縁曲尺六分五分之寸法縁ハ蠟之也

鶴屋寸法

胴尺曲尺二寸五分、きつちやう曲尺二寸五分  
く、尺曲尺二寸五分、端尺曲尺二寸五分

但胴ハ細キハ四方尺曲尺二寸五分四方

風物之尺寸法

胴曲尺四寸 ぐ、曲尺四寸

きつちやう曲尺二寸五分 端尺曲尺二寸五分

向板寸法

長廿曲尺二寸五分三寸五分五分

幅 同 之尺四寸七分

之廿四 之尺七分



円小板

長サ曲尺 五寸八分

幅同 五寸四分

寸同 五寸七分

但与振光木を板に張るべし

切錯ミ 長サ曲尺 五寸八分

小板 五寸曲尺 五寸七分

幅 曲尺 五寸七分

但木板をもしねても可し

一 茶巾 大の方 曲尺 五寸

一包帯の濃茶よ遣ひや也例飾付右を左  
出たのよ平年のせ右を左ともし右を左と出し  
後紗たに張るいれものをたきしむけ  
中し親指よりぬきしを糸の糸に後紗はす  
例茶巾の茶巾ホ例茶巾茶巾茶巾  
茶巾右に持るの茶巾茶巾茶巾茶巾  
茶巾例茶巾茶巾茶巾茶巾茶巾  
茶巾茶巾

○宗通傳包帯ハ後紗ヲ串ビ包深口ノ教  
ニ通飾有テ也

○茶碗ト持テ方ニ串ビ後紗結ヒ目解キ  
左ニ方結ヒ目後紗ノ角持向テあけ  
テ右ニ串ビ右ニ女ヲ持後紗凡ク女ヲ  
被テ例ニテト捌後紗事  
四方ノ事ニテハ此ノ外海田ノ教の如ク

伊藤氏ノ必書

文化十<sup>陸</sup>酉年五月上旬写之

福井正勝

